

2009年度

講義計画

桃山学院大学

義

義

十

國

科目名	クラス	講義区分	
卒業論文	[SW]	01 <通期>	石 田 易 司
卒業論文	[SW]	02 <通期>	伊 藤 高 章
卒業論文	[SW]	03 <秋集>	郭 藤 麗 月
卒業論文	[SW]	04 <通期>	川 井 太 加
卒業論文	[SW]	05 <通期>	川 井 太 加
卒業論文	[SW]	06 <通期>	栄 福 七 子
卒業論文	[SW]	07 <通期>	福 田 公 教
卒業論文	[SW]	08 <通期>	福 松 公 文
卒業論文	[SW]	09 <通期>	丸 山 克 子
卒業論文	[SW]	10 <通期>	安 原 裕 佳
4 単位			

【講義概要】

3回生の演習で積み上げてきた学習を深め、卒業論文という形にして書き上げることを目的とする。そのため、この授業では、各自、研究したいテーマを設定し、それに基づき、参考文献の紹介および検索方法、論文の書き方等に関して、指導する。

基本的には、個人指導あるいはグループ指導とする。

【講義計画】

第1回 前半：テーマの設定・参考文献の収集・論文の組み立てをし、中間発表会を行う。
後半：卒業論文を完成させる。

【成績評価の方法】

卒業論文の内容で評価する。

【教科書】

適宜紹介

【参考文献】

適宜紹介する

科目名	クラス	講義区分
村落社会学 <春集>		
清 水 由 文		4 単位

【講義概要】

本講義の内容は「農と食の社会学」として講義します。ところで現在の日本の食料自給率はカロリーベースでみれば39%です。先進国でこのような低い数字の国は日本以外存在しません。そしてその不足分は世界のあらゆる国からの輸入食料に頼っているのです。そして見かけは飽食でどのような食料も手に入るのです。そこに最近多発している食の偽装問題も関わり合ってくるのです。それではなぜ1960年ぐらいまでは自給率は60%ぐらいはあったのですが、なぜ現在のよう減少してしまったのでしょうか。それらは経済のグローバル化、農村・農民、消費者の側面から考えていかなければならないのです。とくに食料生産者の農民・農村と食料を消費する消費者の両側面から検討していく必要があるのです。以下では、農民・農村問題と消費者の変化をとおして現代の農と食の問題を考えて行くことにします。

【学習目標】

まず1部では農民・農業・農村社会の特徴を戦前から現在までの変化を社会の変化と関連づけて理解できることを主眼にします。したがって、戦前の農業、農村が農地改革でどのような変化したのかを理解する。つぎに高度成長経済により日本農業、農村がどのような変化していったのかを検討します。そして、現在の日本の農業、農村が高齢化、過疎化によりどのように農村崩壊が進行しているのかを考察していきます。2部では消費者の食に対する変化を中心に検討していきます。食の近代化、食生活の変化、食の外部化、家族の変化、食品偽装問題、子供の食の乱れなどのテーマをとおして消費者の食の変化を捉えていきたいと思う。そして最終的に農と食の関連を追究することが本講義の目標である。

【講義計画】

- 第1回 講義計画の詳細を資料により説明。参考文献紹介。
- 第2回 戦前の日本農業・農村社会
- 第3回 戦前の大地主の事例研究
- 第4回 戦後の農地改革の意義と農業・農村の変化
- 第5回 1961年の農業基本法
- 第6回 高度成長経済による農業・農村の変化
- 第7回 現代の農業の現状と問題点
- 第8回 日本の伝統的農村社会の特徴
- 第9回 日本の農村社会の基礎としての伝統的家族・親族
- 第10回 高齢化・過疎化による農村社会の崩壊と限界集落の概念
- 第11回 農村社会の活性化
- 第12回 グリーン・ツーリズム
- 第13回 グリーン・ツーリズムの事例
- 第14回 まとめ
- 第15回 主食としての米の問題
- 第16回 食料自給率低下の問題主食としての米の問題
- 第17回 食料輸入問題
- 第18回 食生活の変化
- 第19回 食の外部化ー内食・中食・外食との関連
- 第20回 ファースト・フード化の問題
- 第21回 マクドナルド化とマクドナルドの歴史と現状
- 第22回 食と家族の変化の関連
- 第23回 スローフード運動
- 第24回 BSE問題
スローフード運動
- 第25回 食品偽装問題(1)
- 第26回 食品偽装問題(2)
- 第27回 食の乱れと食育の問題
- 第28回 全体のまとめ

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 20%
授業中に特定のテーマによる小レポートを提出してもらいますが、それらに対して評価をして平常点とするので、それは単に出席点ではない。

【教科書】

とくに使用しないが、資料を配布する。また講義内容に対応した視聴覚教材を持ちいることにより、理解度を深めたい。

【参考文献】

随時講義中に指示する。

科目名 クラス 講義区分	
大学生生活入門セミナー【編入生用】01<春>	
明石吉三	2単位

【講義概要】

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことが分からない。教科書を読んでも分からない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達の輪を作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基本的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

【学習目標】

以下を学習目標とします。

- 1 講義におけるノートの取り方を学ぶ
- 2 レジュメの作り方を学ぶ
- 3 発表・報告・討論の仕方を学ぶ

*全回出席を原則とします。

【講義計画】

- 第1回 (第1回の授業でさらに詳しい説明があります。) 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 図書館の活用の仕方
- 第3回 大学での授業の受け方と勉強の仕方
- 第4回 ノートの作り方(ミニ講義)(1)
- 第5回 ノートの作り方(ミニ講義)(2)
- 第6回 ノートの作り方(ミニ講義)(3)
- 第7回 大学生生活及び入門セミナーについての意見交換
- 第8回 報告の仕方(文献購読と発表)(1)
- 第9回 報告の仕方(文献購読と発表)(2)
- 第10回 討論(1)
- 第11回 討論(2)
- 第12回 本授業の反省会とカリキュラムの説明
- 第13回 基礎学力テスト
- 第14回 キャリア支援講義
- 第15回 *発表順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等で成績評価を行います。

*無断欠席4回以上した場合、単位認定対象外となります。

【教科書】

適宜指示します。

【参考文献】

適宜指示します。

【備考】

<編入生>対象

科目名 クラス 講義区分	
大学生生活入門セミナー【外国人留学生用】02<春>	
野原康弘	2単位

【講義概要】

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことが分からない。教科書を読んでも分からない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達の輪を作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

【学習目標】

<学習目標>

- 1 講義におけるノートの取り方を学ぶ
- 2 レジュメの作り方を学ぶ
- 3 発表・報告・討論の仕方を学ぶ

*全回出席を原則とする。

【講義計画】

- 第1回 (第1回でさらに詳しい説明があります。) 授業の概略説明と自己紹介

*授業順序を入れ替える場合があります。

- 第2回 図書館の活用の仕方
- 第3回 大学での授業の受け方と勉強の仕方
- 第4回 ノートの作り方(ミニ講義)(1)
- 第5回 ノートの作り方(ミニ講義)(2)
- 第6回 ノートの作り方(ミニ講義)(3)
- 第7回 大学生生活および入門セミナーについての意見交換
- 第8回 報告の仕方(文献購読と発表)(1)
- 第9回 報告の仕方(文献購読と発表)(2)
- 第10回 討論(1)
- 第11回 討論(2)
- 第12回 本授業の反省会とカリキュラムの説明
- 第13回 大学の試験とレポート作成
- 第14回 キャリア支援講義

【成績評価の方法】

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

*無断欠席4回以上は、単位認定対象外になります。

【備考】

<外国人留学生>対象

科目名 クラス 講義区分	
大学生生活入門セミナー 03 <春>	
松尾 順 介	2単位

【講義概要】

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」
 このようなことがないように、大学生生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達との輪を作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

【学習目標】

1. 講義におけるノートの取り方を学ぶ。
2. レジュメの作り方を学ぶ。
3. 発表・報告・討論の仕方を学ぶ。

*全回出席を原則とする。

【講義計画】

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 図書館 オリエンテーション
- 第3回 情報センター オリエンテーション
- 第4回 ノートの作り方（ミニ講義）（1）
- 第5回 ノートの作り方（ミニ講義）（2）
- 第6回 ノートの作り方（ミニ講義）（3）
- 第7回 大学生生活及び入門セミナーについての意見交換
- 第8回 報告の仕方（文献講読と発表）（1）
- 第9回 報告の仕方（文献講読と発表）（2）
- 第10回 討論（1）
- 第11回 討論（2）
- 第12回 本授業の反省会とカリキュラムの説明
- 第13回 基礎学力テスト
- 第14回 キャリア支援講義
- 第15回 *第1回でさらに詳しい説明があります。また、授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等。
 *無断欠席4回以上は、単位認定対象外となります。

【教科書】

適宜指示します。

【参考文献】

適宜指示します。

【備考】

<A0入学生>対象

科目名 クラス 講義区分			
大学生生活入門セミナー	03 <春>	松尾 順 介	介三之一
大学生生活入門セミナー	04 <春>	尾石 信 裕	順吉
大学生生活入門セミナー	05 <春>	片岡 信 裕	信裕
大学生生活入門セミナー	06 <春>	岸岡 裕 久	裕久
大学生生活入門セミナー	07 <春>	武田 中 田	中田
大学生生活入門セミナー	08 <春>	竹谷 中 口	竹谷
大学生生活入門セミナー	09 <春>	谷村 恒 俊	谷村
大学生生活入門セミナー	10 <春>	野村 恒 俊	野村
大学生生活入門セミナー	11 <春>	中野 恒 俊	中野
大学生生活入門セミナー	12 <春>	谷川 恒 俊	谷川
大学生生活入門セミナー	13 <春>	村田 恒 俊	村田
大学生生活入門セミナー	14 <春>	中野 恒 俊	中野
大学生生活入門セミナー	15 <春>	野田 恒 俊	野田
大学生生活入門セミナー	16 <春>	長谷川 恒 俊	長谷川
大学生生活入門セミナー	17 <春>	長谷川 恒 俊	長谷川
大学生生活入門セミナー	18 <春>	深谷 恒 俊	深谷
大学生生活入門セミナー	19 <春>	鈴木 恒 俊	鈴木
2単位			

【講義概要】

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」
 このようなことがないように、大学生生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達との輪を作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

【学習目標】

1. 講義におけるノートの取り方を学ぶ。
2. レジュメの作り方を学ぶ。
3. 発表・報告・討論の仕方を学ぶ。

*全回出席を原則とする。

【講義計画】

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 図書館 オリエンテーション
- 第3回 情報センター オリエンテーション
- 第4回 ノートの作り方（ミニ講義）（1）
- 第5回 ノートの作り方（ミニ講義）（2）
- 第6回 ノートの作り方（ミニ講義）（3）
- 第7回 大学生生活及び入門セミナーについての意見交換
- 第8回 報告の仕方（文献講読と発表）（1）
- 第9回 報告の仕方（文献講読と発表）（2）
- 第10回 討論（1）
- 第11回 討論（2）
- 第12回 本授業の反省会とカリキュラムの説明
- 第13回 基礎学力テスト
- 第14回 キャリア支援講義

【成績評価の方法】

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等。
 *無断欠席4回以上は、単位認定対象外となります。

【教科書】

適宜指示します。

【参考文献】

適宜指示します。

【備考】

*上記「授業計画」については、第1回の授業でさらに詳しい説明があります。また、授業順序を入れ替える場合があります。

た
行

科目名	クラス	講義区分
大学入門セミナー	01	<春>
大学入門セミナー	02	<春>
大学入門セミナー	03	<春>
大学入門セミナー	04	<春>
大学入門セミナー	05	<春>
大学入門セミナー	06	<春>
大学入門セミナー	07	<春>
大学入門セミナー	08	<春>
大学入門セミナー	09	<春>
大学入門セミナー	10	<春>
大学入門セミナー	11	<春>
大学入門セミナー	12	<春>
大学入門セミナー	13	<春>
2単位		

【講義概要】

このセミナーの前半は、講義の受け方やノートの取り方といった、大学で授業を受けるための基本的な方法を指導します。また、図書館や情報センターの利用についての基礎的ガイダンスを行ないます。

後半は、インターネット検索を含めた情報収集から、情報を総合してレポートを作成するまでの方法の指導を行ないます。

【学習目標】

このセミナーを通じて、国際教養学部で「何を、どう学ぶのか」について考えていきます。また、学生生活一般に関わるガイダンスや履修指導を受けて、2年次以降、5つの専修のうちどの専修に進むのかということも考えます。

【講義計画】

- 第1回 自己紹介・自己PR
 図書館の利用方法
 情報センターの利用方法
 講義の受け方
 ノートの取り方
 読書指導
 レポートの書き方

【成績評価の方法】

出席（毎回出席が原則）50%、課題提出50%を目安とします。

【参考文献】

授業中に適宜紹介します。

【備考】

08クラス（担当 佐野明子）で使用するテキスト
 専修大学出版企画委員会編
 『知のツールボックス—新入生援助集』
 専修大学出版局、2006年
 定価630円

09クラス（担当 橋内武）で使用するテキスト
 中澤務
 『知のナビゲーター』
 くろしお出版（2007/04）
 978-4874243725
 定価1,890円
 【09L生】のみ履修可

科目名	クラス	講義区分
多文化共生入門—日本におけるイスラーム <秋>		
今澤 浩二	2単位	

【講義概要】

現在、日本にはさまざまな文化的背景を持つ人々が暮らしているが、異文化に対する無理解によって摩擦も起こっている。この講義では、日本におけるイスラームを題材として取り上げ、日本でムスリム（イスラーム教徒）がどのような生活を送り、また日本社会が彼らをどのように見ているのかといった事例を検討し、それを通して、多文化共生のあり方を考える。

【学習目標】

この講義では、日本におけるイスラーム教徒の生活を取り上げるが、イスラームに限らず、さまざまな異文化と共生していくにはどうすればよいか考えを深めることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 多文化共生とは
 第2回 イスラームとは何か①
 第3回 イスラームとは何か②
 第4回 イスラームとは何か③
 第5回 イスラームとは何か④
 第6回 イスラームとは何か⑤
 第7回 日本におけるイスラームの歴史
 第8回 日本のムスリム人口
 第9回 就学と就労
 第10回 宗教儀礼の実践
 第11回 日本における食の問題
 第12回 日本のモスク
 第13回 イスラームと死
 第14回 多文化共生のために

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%
 初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

【参考文献】

桜井啓子『日本のムスリム社会』（ちくま新書、2003年）
 河田尚子『日本人女性信徒が語るイスラーム案内』（つくばね舎、2004年）

【備考】

<08~09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
多文化共生入門-ヨーロッパの移民 <春>	
岩 津 洋 二	2単位

【講義概要】

グローバル時代を迎えて、国や民族を越えた交流はますます日常的になってきており、異なる文化を理解し受け入れることが21世紀に生きる人々の必須の課題となる。多文化の共生する社会にしか21世紀の未来はないからだ。しかし、国や民族を越えることは簡単なことではない。

今日のヨーロッパはEUという組織を作って、近代社会の基本的な枠組みとなってきた国民国家を越える統合を推進しながら、異文化の担い手である移民の増大に苦慮している。ヨーロッパの移民問題は社会が異文化とどう対応するかという課題を考えるための好例となっている。

【学習目標】

昔から多くの移民の受入れてきたヨーロッパの実態を学びながら、多文化共生という課題にとまなう諸問題への理解を深めたい。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 移民という存在
- 第3回 ヨーロッパの移民の歴史
- 第4回 移民の実態
- 第5回 旧植民地からの移民
- 第6回 ヨーロッパ人の移動
- 第7回 移民受入れの2つの方針
- 第8回 移民をめぐる諸問題
- 第9回 反移民感情
- 第10回 文化の対立としての移民問題
- 第11回 多文化的環境を生きる
- 第12回 日本における移民問題
- 第13回 多文化共生をめざして
- 第14回 総括

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

【備考】

<08~09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
地域経済論 <春集>	
芝 村 篤 樹	4単位

【講義概要】

主に、近現代の大阪を対象に、地域経済、地域社会、地域政治について歴史的・総合的に講義する。100年余りの日本近現代都市の歴史は、二回の大きな転換期を経験した。1920年代~30年代と、1950年代半ばからの約20年間である。講義ではその転換期を重点に見て、第三の大転換期を経過しつつある現代都市の諸問題について考えたい。

【学習目標】

都市の時代といわれる現在、日本近現代都市について歴史的に考察することを通し、日本都市の現状と課題を明らかにする。同時に、都市の歴史を考えることで、近代社会とは何か、その課題とは何かを考える。

【講義計画】

- 第1回 <はじめに>
都市とは何か?なぜ日本近現代都市について考えるか?
- 第2回 1. 日本近代都市の形成 ①前近代の都市
- 第3回 1. 同上 ②近代都市への転換
- 第4回 1. 同上 ③大阪の都市近代化
- 第5回 2. 1920年・30年代の都市①第一次世界大戦と都市化
- 第6回 2. 同上 ②都市問題と都市機能
- 第7回 2. 同上 ③都市政策の展開
- 第8回 2. 同上 ④都市改造
- 第9回 2. 同上 ⑤都市専門官僚制
- 第10回 2. 同上 ⑥転換の結果
- 第11回 3. 都市と戦争 ①経済と社会
- 第12回 3. 同上 ②大空襲と被害
- 第13回 4. 都市における戦前と戦後 ①断絶と連続
- 第14回 4. 同上 ②都市と農村
- 第15回 5. 高度経済成長期の都市 ①高度経済成長とは?
- 第16回 5. 同上 ②都市化の様相
- 第17回 5. 同上 ③経済成長の明と暗
- 第18回 5. 同上 ④大阪の変貌
- 第19回 5. 同上 ⑤高度経済成長政策
- 第20回 5. 同上 ⑥革新自治体
- 第21回 5. 同上 ⑦革新自治体の功罪
- 第22回 6. 現代都市の諸問題 ①歴史としての現代都市
- 第23回 6. 同上 ②情報化・消費化
- 第24回 6. 同上 ③大阪学の問題点
- 第25回 6. 同上 ④都市の成長管理
- 第26回 6. 同上 ⑤現代における都市と農村
- 第27回 6. 同上 ⑥現代都市の諸問題
- 第28回 講義のまとめ ①都市でどう生きる?

【成績評価の方法】

講義中に5.6回程度、小レポートを行う。それをふくめ、期末試験を行い評価する。

【教科書】

芝村篤樹 都市の近代・大阪の20世紀 思文閣出版

【参考文献】

講義中に紹介する。

科目名	クラス	講義区分
地域研究Ⅰ <秋集>		
村山 高 康	4単位	

【講義概要】

欧米政治の現状分析を中心に講義する。2008年秋は、アメリカ大統領選挙で、史上初の黒人大統領が選出された歴史的な年であった。したがって講義の前半は、大統領選挙を含む現代アメリカの政治状況の分析を行う。アメリカ合衆国という、巨大で複雑な国を理解するのは容易ではない。それには、アメリカの歴史・政治・経済・社会・文化などの、背景を知らなければならない。大統領選挙と、それをめぐるアメリカ国家の内実を考察する。後半は、ますます拡大しその存在感を増大させている欧州連合（EU）の歴史や現状、さらにはその将来を分析する。

【学習目標】

アメリカ合衆国の現状分析を通じて、複雑なアメリカ政治や経済あるいはその社会構造、文化・思想などの理解と、長い歴史的経過を経て形成された多重構造の欧州連合を、立体的に把握することを旨とする。

【講義計画】

- 第1回 講義概要の紹介
- 第2回 アメリカ合衆国の特異な性格
- 第3回 アメリカ政治の特徴 2008年大統領選挙分析
- 第4回 アメリカ社会の変動 オバマ大統領選出の背景 1
- 第5回 アメリカ社会の変動 オバマ大統領選出の背景 2
- 第6回 アメリカ社会の変動 オバマ大統領選出の背景 3
- 第7回 アメリカ社会の変動 オバマ大統領選出の背景 4
- 第8回 アメリカ社会の変動 オバマ大統領選出の背景 5
- 第9回 アメリカ社会の変動 オバマ大統領選出の背景 6
- 第10回 アメリカの政治・経済動向 レーガノミクスから金融恐慌まで 1
- 第11回 アメリカの政治・経済動向 レーガノミクスから金融恐慌まで 2
- 第12回 アメリカ政治思想の諸潮流
- 第13回 国際社会の中のアメリカ
- 第14回 欧州連合（EU）の現在
- 第15回 EU成立の前史 1. 第2次世界大戦後の欧州
- 第16回 2. 冷戦の激化と西欧の動き
- 第17回 3. ECの成立過程
- 第18回 ECからEUへ 1. ECの拡大と新たな出発
- 第19回 2. 欧州理事会設立
- 第20回 3. 単一欧州議定書の意
- 第21回 4. マーストリヒト条約の締結
- 第22回 5. 冷戦崩壊後のEU
- 第23回 6. アムステルダム条約の締結
- 第24回 7. ニース条約の締結
- 第25回 EUの制度と運営
- 第26回 EUの政策一域内および対外関係
- 第27回 EUの課題
- 第28回 まとめーアメリカとヨーロッパの動向

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%

【教科書】

特定のテキストは使用しない

【参考文献】

講義の中で随時指示する

科目名	クラス	講義区分
地域研究Ⅱ <通期>		
鈴木 博 信	4単位	

【講義概要】

「冷戦」の時代、米国と張りあったもう一つの超大国「ソ連」は、18年前の1991年に、わずか74年の短命「帝国」としてあっけなく自壊した。

「資本家」のいない、したがって貧富のはなはだしい格差もリストラも失業もない、勤労市民だけでつくる相互扶助と連帯の共同体へ、資本家という弱肉強食主義者の存在をゆるさない「社会主義社会」へと地球上をつくりかえること！

そんな建国への理念をかかげて発足した新国家「ソビエト連邦」が百年もたずに崩壊した。

ゴルバチョフの改革と失脚、ソ連の崩壊、エリツィン時代をへてプーチンのロシアにいたる「北方の巨大な隣人」の歩みを辿る。

【学習目標】

行きつまったソ連の建て直し（ペレストロイカ）をはかったゴルバチョフの改革とは、どんな改革だったのか？なぜソ連の改革に成功するどころか、崩壊させてしまったのか？

ソ連の統合エリートだった共産党・ソ連国家の官僚たちはどこへ行ったのか？どんな転身をとげたのか？エリツィン時代とはどんな過程だったのか？これにつづいたプーチンの時代は、どんな国づくりをすすめているのか？どんな戦略目標を追求しているのか？どんな世界をめざしているのか？

【講義計画】

- 第1回 I. ゴルバチョフとペレストロイカ
- 第2回 クレムリンの新風ーゴルバチョフ小伝
- 第3回 改革のはじまり：1985～86
- 第4回 根本的政治改革に着手：1987～89
- 第5回 ソ連の政治制度 リストラ
- II. 改革は崩壊を招来した
- 第6回 ペレストロイカの起源と発展
- 第7回 制度の解体、国家の崩壊
- 第8回 東欧圏・共産中国への波紋・波及・衝撃
- 第9回 「冷戦」おわる
- 第10回 ゴルバチョフとその時代
- III. ソ連からロシアへ
- 第11回 復習「ソ連」①ーマルクス、エンゲル、そしてレーニン
- 第12回 復習「ソ連」②ー「ソ連」という実験：1917～1929
- 第13回 復習「ソ連」③ー実験の「発展」：1929～1947
- 第14回 エリツィンのロシアも、クーデタで体制を固めた
- 第15回 エリツィン時代の選挙と憲法と地方
- 第16回 エリツィン再選と新興財閥（オルガルヒ）
- 第17回 第1次チェチェン戦争
- 第18回 1998年の経済危機
- 第19回 エリツィン、「皇太子」を選ぶ
- IV. エリツィンからプーチンへ
- 第20回 第2次チェチェン戦争
- 第21回 エリツィン・ファミリーとの距離
- 第22回 2004年に再選されるとー
- 第23回 「ベスラン」ーテロ事件を利用した集権化
- 第24回 メディアの現状・司法の実状
- 第25回 なぜ選挙をするのか？
- 第26回 ハダルクフスキーつぶし
- 第27回 プーチン体制の「統治エリート」とは？
- 第28回 2頭立て（タンデム）体制の発足
- 第29回 ロシア＝グルジア戦争
- 第30回 「新世界」のなかでの展望

【成績評価の方法】

- ① 定期試験にかわる秋学期末の「大レポート」
ー最低2冊以上の文献・資料を使用して、2000字以上。
 - ② 夏休み前に課す「小レポート」（書評レポート）。
 - ③ 講義のおわりに随時、提出してもらう「ミニ・コメント」。
- 以上①②③を総合して評価する。このうち、①が大きな比重をもつことは、ことわるまでもない。

【参考文献】

- ・横手慎二『現代ロシア政治入門』（慶應大学出版会）
- ・アダム・ウラム（鈴木博信訳）『膨脹と共存ーソヴエト外交史』全3巻のうち、とくに第1巻；サイマル出版会）
- ・ロデリック・ライン、ストロープ・タルボットほか『プーチン

のロシア』(日本経済新聞出版社)、・マーシャル・ゴールドマン (鈴木博信訳)『強奪されたロシア経済』(NHK出版)、・マーシャル・ゴールドマン (鈴木訳)『石油国家—プーチン、権力、新しいロシア』(近刊：日本経済新聞出版社)、・木村汎ほか『“新冷戦”の序曲—メドヴェージェフ・プーチン双頭政権の軍事戦略』(北星堂)

科目名 クラス 講義区分	
地域福祉論 <春集>	
松 端 克 文	4 単 位

【講義概要】

1. 地域福祉の理念と内容について理解させる
2. 地域福祉計画の意義と内容、地域福祉の推進方法について理解させる
3. 地域福祉の現状について理解させる

【講義計画】

- 第1回
1. 現代社会におけるコミュニティと地域福祉
 2. 現代社会と地域福祉
 - (1) 地域福祉理念の発達
 - (2) 地域福祉の概念と範囲
 - (3) 地域福祉の役割と意義
 3. 地域福祉の構成
 4. 地域福祉の推進方法
 - (1) 推進の基本的な考え方
 - (2) 地域福祉計画の意義と内容
 - (3) 市町村と社会福祉協議会の役割と住民参加の意義
 - (4) サービス提供組織とその運営方法
 - (5) 人材の構成およびその動員方法
 - (6) 財源の構成とその調達方法
 - (7) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職およびその連帯のあり方
 5. 地域福祉の現状と課題
 - (1) 実践を中心とした現状と課題
 - (2) 地域福祉をめぐる政策的な現況と課題
 - (3) 事例検討

【成績評価の方法】

出席と試験で総合的に評価する。

【教科書】

松端克文 よくわかる地域福祉 ミネルヴァ書房

た
行

科目名 クラス 講義区分	
地誌 01 <春>	
安 倉 良 二	2単位

【講義概要】

テーマ：「世界地誌－アジアとオセアニア－」

地誌学は、特定地域の自然と人文の各現象を総合的に考察する地理学の分野であり、その内容は多岐にわたる。本講義では、世界地誌の中でもアジアとオセアニアに着目し、地理学的な見方で当該地域のトピックを紹介することを目的とする。

【学習目標】

現在、高校では「地理」は選択制となっており、未履修の学生も多い。そこで本講義では大学レベルの地理学研究の成果をふまえつつも、中学・高校の「地理」で学ぶ基本的な項目についても随時紹介する。講義は毎回配布するレジュメを基に、書画カメラを用いて図表・写真を提示しながら進めたい。

【講義計画】

- 第1回 講義についてのガイダンス－「地誌学」とは－
- 第2回 東アジア①：韓国
- 第3回 東アジア②：中国(1)－自然環境と民族・文化－
- 第4回 東アジア③：中国(2)－農業と都市・人口問題－
- 第5回 東アジア④：中国(3)－鉱工業－
- 第6回 東南アジア①：自然環境と農林業
- 第7回 東南アジア②：鉱工業
- 第8回 東南アジア③：都市問題
- 第9回 南アジア①：自然環境と民族・文化
- 第10回 南アジア②：農業
- 第11回 南アジア③：鉱工業
- 第12回 オセアニア①：自然環境と民族・文化
- 第13回 オセアニア②：農業と鉱工業
- 第14回 オセアニア③：都市問題

【成績評価の方法】

試験 100%

上記のように、試験で評価する。試験は論述式で、「東アジア」「東南アジア」「南アジア」「オセアニア」の各分野から満遍なく出題する予定である。とりわけ、講義で示したテーマについて、要因分析を中心に地理学的な見方が理解できているのかを評価する。

【参考文献】

テキストは基本的に用いないが、現時点での参考書としては以下のものをあげたい（購入は強制しない）。

1. 『もっと知りたい日本と世界のすがた』(帝国書院)
2. 『図説地理資料・世界の諸地域NOW』(帝国書院)
3. 『図説・世界の地域問題』(ナカニシヤ出版)

【備考】

<02～07生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
地誌 02 <秋>	
安 倉 良 二	2単位

【講義概要】

テーマ：「世界地誌－アフリカ・ヨーロッパ・アメリカを中心に－」
地誌学は、特定地域の自然と人文の各現象を総合的に考察する地理学の分野であり、その内容は多岐にわたる。本講義では、世界地誌の中でもアフリカ、ヨーロッパとアメリカに着目し、地理学的な見方で当該地域のトピックを紹介することを目的とする。

【学習目標】

現在、高校では「地理」を履修していない学生が多い。そこで本講義では、大学レベルの地理学研究の成果をふまえつつ、中学・高校の「地理」で履修する内容についても適宜紹介する。講義は基本的に、毎回配布するレジュメをベースに進めるが、書画カメラを用いて図表類も適宜提示し、各テーマについての理解を深めてもらう。

【講義計画】

- 第1回 講義に関するガイダンス－「地誌学」とは－
- 第2回 アフリカ①－自然環境と民族・文化－
- 第3回 アフリカ②－農業と鉱工業－
- 第4回 アフリカ③－都市問題－
- 第5回 ヨーロッパ①－自然環境と民族・文化－
- 第6回 ヨーロッパ②－農業と鉱工業－
- 第7回 ヨーロッパ③－EU統合に伴う地域的インパクト－
- 第8回 ヨーロッパ④－都市問題－
- 第9回 北アメリカ①－自然環境と民族・文化－
- 第10回 北アメリカ②－農業－
- 第11回 北アメリカ③－鉱工業と都市問題－
- 第12回 中南アメリカ①－自然環境と民族・文化－
- 第13回 中南アメリカ②－農業－
- 第14回 中南アメリカ③－鉱工業－

【成績評価の方法】

試験 100%

上記の通り、試験で評価する。試験は論述式を基本に、「アフリカ」「ヨーロッパ」「北アメリカ」「中南アメリカ」の各分野から満遍なく出題する予定である。講義で取り上げた各テーマについて、要因分析を中心に地理学的な見方が理解できているのかどうかを評価したい。

【参考文献】

テキストは用いないが、参考文献としては以下のものをあげたい。

1. 『もっと知りたい日本と世界のすがた』(帝国書院)
2. 『図説地理資料・世界の諸地域NOW』(帝国書院)
3. 『図説・世界の地域問題』(ナカニシヤ出版)

【備考】

<02～07生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分

地誌 03 <秋>

安 倉 良 二

2単位

【講義概要】

テーマ：「世界地誌－アフリカ・ヨーロッパ・アメリカを中心に－」
地誌学は、特定地域の自然と人文の各現象を総合的に考察する地理学の研究分野であり、その範囲は幅広い。本講義では、世界地誌の中でも、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカを取り上げ、地理学的な見方で当該地域におけるトピックを紹介する。

【学習目標】

現在、高校では「地理」を履修していない学生が多い。そこで、本講義では大学レベルでの地理学研究成果をふまえて、中学・高校の「地理」で学ぶ基本的な項目についても随時紹介する。講義は毎回配布するレジュメに基づいて進めるが、書画カメラを用いて図表類も適宜提示し、各テーマについての内容のさらなる理解を深めてもらう。

【講義計画】

- 第1回 講義を進めるに際してのガイダンス－「地誌学」とは－
- 第2回 アフリカ①－自然環境と民族・文化－
- 第3回 アフリカ②－農業・鉱工業－
- 第4回 アフリカ③－都市問題－
- 第5回 ヨーロッパ①－自然環境と民族・文化－
- 第6回 ヨーロッパ②－農業と鉱工業－
- 第7回 ヨーロッパ③－EU統合に伴う地域的インパクト－
- 第8回 ヨーロッパ④－都市問題－
- 第9回 北アメリカ①－自然環境と民族・文化－
- 第10回 北アメリカ②－農業－
- 第11回 北アメリカ③－鉱工業と都市問題－
- 第12回 中南アメリカ①－自然環境と民族・文化－
- 第13回 中南アメリカ②－農業－
- 第14回 中南アメリカ③－鉱工業－

【成績評価の方法】

試験 100%

上記の通り、試験で評価する。試験は論述式で「アフリカ」「ヨーロッパ」「北アメリカ」「中南アメリカ」の各分野から満遍なく出題し、講義で取り上げた各テーマについて、要因分析を中心に基本的な項目が理解できているかどうかについて評価したい。

【参考文献】

テキストは用いないが、参考書としては以下の書物をあげたい。

1. 『もっと知りたい日本と世界のすがた』(帝国書院)
2. 『図説地図資料・世界の諸地域NOW』(帝国書院)
3. 『図説・世界の地域問題』(ナカニシヤ出版)

【備考】

<02～07生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分

地誌 [4] 01 <通期>

佐々木 育 子

4単位

【講義概要】

21世紀を生きる私達は、好むと好まざるとにかかわらず、世界の諸地域と関わりをもち、その動きに影響される。

諸地域は如何にして形成され、そこに住む人々は何を求め、どのように生活しているかを、日本を含めいくつかの国を中心にこの講義では見ていく。

人数にもよるが、実際に地域を見るフィールドワークも実施の予定。

【学習目標】

社会科の教師を目指す人は、「世界」を知らねばならない。「世界」を知るための目をもたねばならない。そのための基礎力を養うことを目標とする。

【講義計画】

第1回 はじめに－地誌を学ぶにあたって－

第2回 世界の地誌

1. アングロアメリカ①
アングロアメリカ②
2. EU諸国①
EU諸国②
3. ロシアと旧ソ連邦諸国①
ロシアと旧ソ連邦諸国②
4. 西アジア～北アフリカ①
西アジア～北アフリカ②
5. サハラ以南のアフリカ①
サハラ以南のアフリカ②
6. オセアニア
7. ラテンアメリカ①
ラテンアメリカ②

第15回 前期のまとめ

8. 南・東南アジア①
南・東南アジア②
9. 東アジア①
東アジア②

第20回 日本の地誌

1. 近畿圏①
近畿圏②
2. 中部圏①
中部圏②
3. 首都圏①
首都圏②
4. 東北・北海道地方
5. 中国・四国地方
6. 九州・沖縄地方①
九州・沖縄地方②

第30回 後期のまとめ

【成績評価の方法】

出席状況(参加姿勢も含む)とレポート(授業中の小レポートも加味)で総合的に評価する

【教科書】

帝国書院編集部 世界の諸地域NOW 2009 図説地理資料
帝国書院
920円

【参考文献】

- A. 授業中に適宜紹介
- B. 地図帳(最新のものが望ましい)は各自用意のこと

【備考】

<08～09生>のみ履修可

た
行

科目名 クラス 講義区分	
地誌 [4] 02 <秋集>	
野 尻 亘	4単位

【講義概要】

地理学の応用領域である「地誌」の授業においては、世界および日本の諸地域の特色を理解し把握するために、人文・社会・自然環境の観点から総合的に考察を加える。あわせて、中学校社会科・高校地理歴史科授業のための地理教材研究・地域教材開発を行う。

【学習目標】

世界および日本の諸地域について、それらの全体的特色について、全般的・網羅的に学習するとともに、中学・高校の授業教材として活用する方法を検討する。学生自らが、身近な地域を事例に社会科地域教材を開発し、指導案を作成する実習を行う。

【講義計画】

- 第1回 序論
はじめに 地誌とは何か
- 第2回 社会科および地理教育と地域教材の重要性
- 第3回 等質地域と結節地域の概念の違い
- 第4回 I 世界地誌
世界の国々と人々
- 第5回 世界の自然環境を大観する 地形・気候・農業的土地利用
- 第6回 東アジアの地誌
- 第7回 東南アジアの地誌
- 第8回 南アジアの地誌
- 第9回 西アジアと北アフリカの地誌
- 第10回 中・南アフリカの地誌
- 第11回 ヨーロッパの地誌(1)
- 第12回 ヨーロッパの地誌(2)
- 第13回 ロシア連邦と周辺諸国の地誌
- 第14回 アングロアメリカの地誌(1)
- 第15回 アングロアメリカの地誌(2)
- 第16回 ラテンアメリカの地誌
- 第17回 オセアニアと両極地方の地誌
- 第18回 世界の諸地域について教材化する
- 第19回 II 日本地誌
世界から見た日本
- 第20回 日本の諸地域 大都市圏と農村地帯
太平洋ベルト地帯と環日本海圏
- 第21回 九州・沖縄の地誌
- 第22回 中国・四国の地誌
- 第23回 近畿地方の地誌
- 第24回 中部地方の地誌
- 第25回 関東地方の地誌
- 第26回 東北地方の地誌
- 第27回 北海道地方の地誌
- 第28回 変化する日本と世界の結びつき
- 第29回 身近な日本の諸地域を教材化する
- 第30回 地域教材の指導案づくり

【成績評価の方法】

世界の諸地域を教材とした中学校社会科もしくは高校地理の授業指導案を作成する。また身近な日本の諸地域を事例とした授業指導案を作成する。これらのレポートの提出を単位認定の条件とする。

【教科書】

教科書は使用しない。毎時間授業中に必要なプリントを配布する。

【参考文献】

地誌に関する文献については授業中に適時紹介する。
中学・高校時に使用した「地図帳」が家に残っていれば、授業に持参していただければ幸いです。

【備考】

<08～09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
知的財産法 <秋集>	
馬 場 巖	4単位

【講義概要】

ガイダンス・知的財産権の目的・特許法・実用新案法・意匠法・商標・商号・著作権法・パブリシティの権利・不正競争防止法・種苗法の順番でおおのこの法律をみていきます。

なお、これらに関する事件・判例などが出た場合には、それについての授業にかえる場合があります。

【学習目標】

知的財産権は、いたって私達にとって身近な権利です。講義で詳しく話しますが、例をあげればカップヌードルや携帯電話などに関係しています。

知的財産権とは、特許法(発明)・実用新案法(考案)・意匠法(意匠)・商標法(商標)といった産業財産権と著作権法(著作物)、不正競争防止法・商号、種苗法などの無体物で財産的価値のあるものを対象にしています。

本授業では、これら知的財産権の基礎知識の習得を目指します。

【講義計画】

- 第1回 授業のガイダンス
- 第2回 知的所有権の概要
- 第3回 知的所有権が保護される根拠
- 第4回 知的所有権と民法の関係
- 第5回 まとめ
- 第6回 特許法の概要
- 第7回 特許法・発明
- 第8回 特許法・積極的要件
- 第9回 特許法・積極的要件・消極的要件
- 第10回 特許法・登録手続き
- 第11回 まとめ
- 第12回 実用新案法の概要
- 第13回 実用新案権
- 第14回 まとめ
- 第15回 意匠法の概要
- 第16回 意匠法・登録要件
- 第17回 意匠法・登録要件
- 第18回 意匠法・登録手続き
- 第19回 まとめ
- 第20回 商標法の概要
- 第21回 意匠法・登録要件
- 第22回 意匠法・登録要件
- 第23回 意匠法・登録要件
- 第24回 意匠法・登録手続き
- 第25回 まとめ
- 第26回 著作権の概要
- 第27回 著作権・著作物
- 第28回 著作権・著作権の制限
- 第29回 著作権・著作者人格権・登録
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 100%
試験で評価します。

【教科書】

清水幸雄 新はじめて学ぶ知的所有権法 北樹出版

【参考文献】

授業において指示する。

【備考】

<02～06生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分

地方財政論 <秋集>

藤田 香

4単位

【講義概要】

日本の財政事情（財政赤字）は歴史的にも国際比較に見ても、例を見ないほどの厳しい状況にあります。にもかかわらず現在、少子・高齢化社会の到来に向けた医療・福祉・年金改革や景気対策のための公共投資など財政の多様な機能が求められています。同時に、経済のグローバル化、地方分権改革や地球環境問題等に対応するかといった新たな課題に対する解決策が模索されています。

この講義ではテキストを利用して、地方財政の仕組み・特徴・課題について検討いたします。具体的には、地方財政の役割とその仕組み、地方財政をめぐる議論、日本の地方財政の歩み、諸外国の地方財政等について、図表や事例を交えながら実施する予定です。

【学習目標】

「地方財政」が持つ現代的な意味、問題を検討することから、皆さんの身の回りにある社会を見つめなおし、地域社会の中で考え、参加し、行動することができれば幸いです。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
- 第2回 地方財政論について：その特徴と課題(1)
- 第3回 地方財政論について：その特徴と課題(2)
- 第4回 現代地方財政の理論と構造(1)
 - 1 日本の地方自治と地方財政
- 第5回 2 地方自治体の予算制度とローカル・ガバナンス
- 第6回 3 地方経費の構造と機能の変化
- 第7回 4 地方税と課税自主権(1)
- 第8回 5 地方税と課税自主権(2)
- 第9回 6 国と地方の財政関係(1)
- 第10回 7 国と地方の財政関係(2)
- 第11回 8 国と地方の財政関係(3)
- 第12回 9 「三位一体の改革」の展開
- 第13回 10 地方公共サービスと地方公営企業、地方公社・第三セクター、NPO
- 第14回 転換期の地方財政政策論
 - 1 自治体再編下の地方自治財政(1)―市町村合併・道州制と自治体財政―
- 第15回 2 自治体再編下の地方自治財政(2)―市町村合併・道州制と自治体財政―
- 第16回 3 都市制度の多様化と「都市再生」・都市財政
- 第17回 4 農村の政策と財政(1)
- 第18回 5 農村の政策と財政(2)
- 第19回 6 災害と地方財政
- 第20回 7 公共事業改革と自治体財政(1)
- 第21回 8 公共事業改革と自治体財政(2)
- 第22回 9 循環型社会と地方自治(1)
- 第23回 10 循環型社会と地方自治(2)
- 第24回 分権型共同福祉社会と財政的自治の設計(1)
- 第25回 分権型共同福祉社会と財政的自治の設計(2)
- 第26回 環境と地方財政(1)
- 第27回 環境と地方財政(2)
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

レポート 80% 出席 20%

* 基本的には、テキストに沿った講義を予定していますが、状況に応じて、取り扱う内容や順序を変更する場合があります。

* 第1回講義に、ガイダンスを行います。

【教科書】

宮本憲一・遠藤宏一編著 セミナー現代地方財政Ⅰ 「地域共同社会」再生の政治経済学 勁草書房

宮本憲一・遠藤宏一編著『セミナー現代地方財政Ⅰ 「地域共同社会」再生の政治経済学』(勁草テキスト・セレクション)、2006年、勁草書房。(ISBN 4-326-50283-5、本体3000円)

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介する。

科目名 クラス 講義区分

中国経済論 <春集>

馬 桂 芸

4単位

【講義概要】

中国は、高度経済成長の一方で、各種の問題を抱えている。さらに、人口が多く、発展段階の異なる多数の地域からなるため、中国経済を丸ごと理解することがとても難しい。本講義では、中国経済全体に目を配りつつ、主に加藤・上原(2004)に沿って、「現代のなかの歴史」、「多様性のなかの発展」、「世界のなかの中国」の各側面から中国経済の発展過程と発展の概況を講義する。

【学習目標】

中国経済の発展過程と発展の概況を把握する。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス―講義の概要、授業の進め方、成績評価などについて。中国経済への招待(序章)
- 第2回 中国経済の概況
- 第3回 現代のなかの歴史(1)―20世紀の中国経済―発展と変化の過程(1章)
- 第4回 NHKドキュメンタリー―毛沢東とその時代(上)
- 第5回 NHKドキュメンタリー―毛沢東とその時代(下)
- 第6回 現代のなかの歴史(2)―社会主義計画経済体制における中国経済(1949―78)(2章)
- 第7回 現代のなかの歴史―改革開放後における中国経済(1979―現在)(3章)
- 第8回 NHKドキュメンタリー―改革開放の総設計師―鄧小平
- 第9回 開発戦略と開発政策
- 第10回 中国経済発展戦略(1)―対外開放の足取り
- 第11回 中国経済発展戦略(2)―西部大開発
- 第12回 中国経済発展戦略(3)―東北振興
- 第13回 NHKドキュメンタリー(テーマ未定)
- 第14回 多様性のなかの発展(1)―中国経済発展の中の農業・農村・農民問題(4章)
- 第15回 多様性のなかの発展(2)―企業体制の転換(5章)
- 第16回 多様性のなかの発展(3)―工業立地の変遷(6章)
- 第17回 多様性のなかの発展(4)―財政金融からみた中央と地方(7章)
- 第18回 多様性のなかの発展(5)―失業、貧困と所得格差(8章)
- 第19回 多様性のなかの発展(6)―人口と社会保障(9章)
- 第20回 NHKドキュメンタリー(テーマ未定)
- 第21回 中国経済発展における環境とエネルギー問題
- 第22回 NHKドキュメンタリー 豊かさへの模索
- 第23回 世界のなかの中国(1)―貿易と直接投資(10章)
- 第24回 世界のなかの中国(2)―中国企業の海外進出と競争力(11章)
- 第25回 世界のなかの中国(3)―香港・台湾と中国(12章)
- 第26回 北東アジアと中国(13章)
- 第27回 中国経済の行方(終章)
- 第28回 総まとめと復習
- 第29回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 20%

【教科書】

加藤弘之・上原一慶 中国経済論
必要に応じて資料を配布する。

科目名 クラス 講義区分	
中国語 I a 01 <春>	
汪 暁 京	1 単位

【講義概要】

使うテキストはCD付きで、ビデオも対応している。そして、テキストの本文からビデオまで習う言葉と文型がいろんな形でリピートされている。発音段階が終わったら本文の勉強に入る。第1課から第16課までの本文は全て会話文からなる。また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介する。

【学習目標】

「発音よければ、半ばよし」——この言い方は同じ漢字を使う日本人にとってなおさらの真実だ。初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。目標はまずピンイン（ローマ字による発音表記）の習得、それを頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚える。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。

【講義計画】

第1回 導入：
中国語について
中国語の勉強について
この授業について

- 第2回 ピンイン
- 第3回 ピンイン
- 第4回 ピンイン
- 第5回 ピンイン
- 第6回 ピンイン
- 第7回 第1課
- 第8回 第2課
- 第9回 第3課
- 第10回 第4課
- 第11回 第4課
- 第12回 第5課
- 第13回 第6課
- 第14回 第7課

【成績評価の方法】

出席状況、勉強の態度、平素の小テストの評点と期末の試験の評点で総合的に評価します。【平常点40%（出席10点、小テスト30点）期末の試験60%】。出席回数が三分の二を満たさない者には、定期試験の成績如何にかかわらず単位は与えられない。

【教科書】

相原 茂 + 陳 淑梅 + 飯田 敦子「一年生のころ」（ビデオで学ぶ中国語 改訂版 CD付）朝日出版社

【参考文献】

中日辞書

【備考】

出席は勿論、必ず声を出して練習すること。

科目名 クラス 講義区分	
中国語 I a 02 <春>	
左 虹	1 単位

【講義概要】

中国語のピンインと声調を見て正しく発音することができる。また、中国語の語順と基本文型などを理解することができる。

【学習目標】

第二外国語として、はじめて中国語を学ぶ学生に対して、表現力を中心とした授業内容を実施する。「聞く・話す・読む・書く・訳す」という基本の中から、音声、特に会話力に力点を置く。正しい発音の基礎、聞く力の向上に努める。学期末で、単語が200語前後マスターできるように授業を進める。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第1課 中国語の特徴・声調と単母音
- 第2回 第2課 複母音と子音・鼻母音とピンインの綴り方
- 第3回 ピンイン編確認小テスト・
- 第4回 第3課 名前の言い方・西暦・挨拶などの文法ポイント・発音練習
- 第5回 発音練習・確認会話
- 第6回 第4課 動詞文のポイント・練習
- 第7回 発音練習・確認練習・確認会話
- 第8回 第5課 時間・国名；発音練習・練習
- 第9回 ポイントのまとめ・発音練習総合復習発音練習・確認練習・確認会話
- 第10回 中間確認テスト・会話練習
- 第11回 第6課 疑問詞疑問文などのポイント・練習
- 第12回 発音練習・確認練習・確認会話
- 第13回 第7課 指示代名詞などのポイント・練習
- 第14回 発音練習・確認練習・確認会話
- 第15回 15回目：総合復習・学期末試験

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%
定期試験（筆記）の成績と平常成績で総合評価する。
平常成績：出席状況、授業への参加態度、随時行われる小テストの成績など。

【教科書】

小川利康・王延偉 中国語 新天地① 朝日出版社

科目名 クラス 講義区分

中国語 I a 03 <春>

林 宏 作

1 単位

【講義概要】

中国語の発音や語法の基礎訓練、特に漢語ローマ字や拼音・四声の習熟、さらに基本文型の理解から、日常会話を習得し、教科書を用いながら講読する。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス ・授業計画について
第2回 中国語について
第3回 漢語ローマ字と拼音
第4回 漢語ローマ字と拼音
第5回 漢語ローマ字と拼音
第6回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
第7回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
第8回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
第9回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
第10回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
第11回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
第12回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
第13回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
第14回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
第15回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

康玉華・王德珮著 奥水優監修『基礎中国語会話』改訂版 東方書店

【備考】

第1回で授業計画の詳細な説明を行う。

科目名 クラス 講義区分

中国語 I b 01 <春>

徐 国 玉

1 単位

【講義概要】

使うテキストはCD付きで、ビデオも対応している。そして、テキストの本文からビデオまで習う言葉と文型がいろんな形でリピートされている。発音段階が終わったら本文の勉強に入る。第1課から第16課までの本文は全て会話文からなる。

また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介する。

【学習目標】

「発音よければ、半ばよし」——この言い方は同じ漢字を使う日本人にとってなおさらの真実だ。初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。目標はまずピンイン（ローマ字による発音表記）の習得、それを頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚える。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。

【講義計画】

- 第1回 発音編
第2回 発音編
第3回 発音編
第4回 発音編
第5回 第1課
第6回 第2課
第7回 第3課
第8回 第4課
第9回 第5課
第10回 第6課
第11回 第6課
第12回 第7課
第13回 第7課
第14回 総復習
第15回 試験

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

相原 茂 一年生のころ 朝日出版社

科目名 クラス 講義区分	
中国語 I b 02 <春>	
徐 国 玉	1 単位

【講義概要】

発音を含めて全22課構成。本文は身近な話題のやさしい会話文。文法説明は簡明で分かりやすい。

【学習目標】

中国語は世界で最も会話人口の多い言語の一つです。中国の経済は急速に発展していて、現在の日本のビジネス界にとっても、中国語はますます重要な言語となっています。

この授業では、「話す・聞く・読む・書く」という四つの技能を丁寧に指導し、中国語の総合的なコミュニケーション能力を向上させることを目標としている。

【講義計画】

- 第1回 第1課発音編
- 第2回 第1課発音編
- 第3回 第1課発音編
- 第4回 第2課発音編
- 第5回 第2課発音編
- 第6回 第2課発音編
- 第7回 第3課
- 第8回 第3課
- 第9回 第4課
- 第10回 第4課
- 第11回 第5課
- 第12回 第5課
- 第13回 第6課
- 第14回 第6課
- 第15回 試験 秋季 第7課～第12課

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 10%
出席状況、勉強の態度、平素の小テストの評点と期末の試験の評点で総合的に評価します。【平常点40%（出席10点、小テスト30点、期末の試験60点）】 三分の二以上出席しなかった者には、定期試験の成績にかかわらず、単位は与えられない。

【教科書】

徐国玉 山田忠司 基礎レッスン中国語 同学社

科目名 クラス 講義区分	
中国語 I b 03 <春>	
林 宏 作	1 単位

【講義概要】

中国語の発音や語法の基礎訓練、特に漢語ローマ字や拼音・四声の習熟、さらに基本文型の理解から、日常会話を習得し、教科書を用いながら講読する。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス ・授業計画について
漢語ローマ字と拼音
- 第2回 漢語ローマ字と拼音
- 第3回 漢語ローマ字と拼音
- 第4回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第5回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第6回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第7回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第8回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第9回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第10回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第11回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第12回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第13回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第14回 教科書第1課～第9課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

康玉華・王徳珮著『基礎中国語会話』改訂版 東方書店

【備考】

第1回で授業計画の詳細な説明を行う。

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅱ a 01 <秋>	
汪 暎 京	1 単位

【講義概要】

使うテキストはCD付きで、ビデオも対応している。そして、テキストの本文からビデオまで習う言葉と文型がいろんな形でリピートされている。発音段階が終わったら本文の勉強に入る。第1課から第16課までの本文は全て会話文です。
また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介する。

【学習目標】

「発音よければ、半ばよし」——この言い方は同じ漢字を使う日本人にとってなおさらの真実だ。初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。目標はまずピンイン（ローマ字による発音表記）を頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚える。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。

【講義計画】

- 第1回 春学期の復習
第8課
- 第2回 第8課
- 第3回 第9課
- 第4回 第10課
- 第5回 第10課
- 第6回 第11課
- 第7回 第12課
- 第8回 第12課
- 第9回 第13課
- 第10回 第14課
- 第11回 第14課
- 第12回 第15課
- 第13回 第16課
- 第14回 第16課

【成績評価の方法】

出席状況、勉強の態度、平素の小テストの評点と期末の試験の評点で総合的に評価します。【平常点40%（出席10点、小テスト30点）期末の試験60%】。出席回数が三分の二を満たさない者には、定期試験の成績如何にかかわらず単位は与えられない。

【教科書】

相原 茂 + 陳 淑梅 + 飯田 敦子「一年生のころ」（ビデオで学ぶ中国語 改訂版 CD付）朝日出版社

【参考文献】

中日辞書

【備考】

出席は勿論、必ず声に出して練習すること。

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅱ a 02 <秋>	
左 虹	1 単位

【講義概要】

中国語Ⅰ習った語彙と文法を使って、日常会話を話したり、簡単な作文を書いたりすることができる。

【学習目標】

中国語を半年勉強した学生に対して、発音基礎を固めながら、表現力のさらなる向上を目指す。表現パターン、語彙量を増やししながら、陳述、依頼などの表現を含む簡単な会話を理解し、コミュニケーション力をつけていくように授業を進める。また中国の歴史、文化、社会などに関する内容も積極的に取り入れ、中国語を学習しながら、時事中国についての知識も身につけていきたい。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
中国語Ⅰで習った内容の総合復習
- 第2回 第八課 形容詞文のポイント、本文の分析・発音
- 第3回 発音練習・確認練習
- 第4回 第九課 動詞文のポイント、本文の分析・発音
- 第5回 発音練習・確認練習
- 第6回 第十課 方位詞の学習、本文の分析・発音
- 第7回 発音練習・確認練習
- 第8回 総合復習・確認テスト
- 第9回 第十一課 数字、有などの学習、本文の分析・発音
- 第10回 発音練習・確認練習
- 第11回 第十二課 在、文型などの学習、本文の分析・発音
- 第12回 発音練習・確認練習
- 第13回 第十三課 お金の言い方、文型などの学習、本文の分析・発音
- 第14回 発音練習・確認練習・総合復習
- 第15回 学期末テスト

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%
定期試験（筆記）の成績と平常成績で総合評価する。
平常成績：出席状況、授業への参加態度、随時行われる小テストの成績など。

【教科書】

小川利康・王延偉 中国語 新天地① 朝日出版社

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅱ a 03 <秋>	
林 宏 作	1 単位

【講義概要】

中国語の発音や語法の基礎訓練、特に漢語ローマ字や拼音・四声の習熟、さらに基本文型の理解から、日常会話を習得し、教科書を用いながら講読する。

【講義計画】

- 第1回 1. はじめに ガイダンス ・授業計画について
 第2回 漢語ローマ字と拼音の復習
 第3回 漢語ローマ字と拼音の復習
 第4回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
 第5回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
 第6回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
 第7回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
 第8回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
 第9回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
 第10回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
 第11回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
 第12回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
 第13回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
 第14回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。
 第15回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマークのペースで行う。

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

康玉華・王徳珮著 興水優監修 『基礎中国語会話』改訂版 東方書店

【備考】

第1回で授業計画の詳細な説明を行う。

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅱ b 01 <秋>	
徐 国 玉	1 単位

【講義概要】

使うテキストはCD付きで、ビデオも対応している。そして、テキストの本文からビデオまで習う言葉と文型がいろんな形でリピートされている。発音段階が終わったら本文の勉強に入る。第1課から第16課までの本文は全て会話文からなる。

また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介する。

【学習目標】

「発音よければ、半ばよし」——この言い方は同じ漢字を使う日本人にとってなおさらの真実だ。初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。目標はまずピンイン（ローマ字による発音表記）の習得、それを頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚える。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。

【講義計画】

- 第1回 第8課
 第2回 第8課～第9課
 第3回 第9課
 第4回 第10課
 第5回 第10課～第11課
 第6回 第11課
 第7回 第12課
 第8回 第12課～第13課
 第9回 第13課
 第10回 第14課
 第11回 第14課～第15課
 第12回 第15課
 第13回 第16課
 第14回 第16課～総復習
 第15回 試験

【成績評価の方法】

出席状況、勉強の態度、平素の小テストの評点と期末の試験の評点で総合的に評価します。三分の二以上出席しなかった者には、定期試験の成績にかかわらず、単位は与えられない。

【教科書】

相原 茂 一年生のころ 朝日出版社

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅱ b 02 <秋>	
徐 国 玉	1 単位

【講義概要】

発音を含めて全22課構成。本文は身近な話題のやさしい会話文。文法説明は簡単で分りやすい。

【学習目標】

中国語は世界で最も会話人口の多い言語の一つです。中国の経済は急速に発展していて、現在の日本のビジネス界にとっても、中国語はますます重要な言語となっています。

この授業では、「話す・聞く・読む・書く」という四つの技能を丁寧指導し、中国語の総合的なコミュニケーション能力を向上させることを目標としている。

【講義計画】

- 第1回 第7課
- 第2回 第7課
- 第3回 第8課
- 第4回 第8課
- 第5回 第9課
- 第6回 第9課
- 第7回 第10課
- 第8回 第10課
- 第9回 第11課
- 第10回 第11課
- 第11回 第12課
- 第12回 第12課
- 第13回 第12課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 10%

出席状況、勉強の態度、平素の小テストの評点と期末の試験の評点で総合的に評価します。【平常点40%（出席10点、小テスト30点、期末の試験60点）】 三分の二以上出席しなかった者には、定期試験の成績にかかわらず、単位は与えられない。

【教科書】

前期と同じ教科書使用

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅱ b 03 <秋>	
林 宏 作	1 単位

【講義概要】

中国語の発音や語法の基礎訓練、特に漢語ローマ字や拼音・四声の習熟、さらに基本文型の理解から、日常会話を習得し、教科書を用いながら講読する。

【講義計画】

- 第1回 1. はじめに ガイダンス ・授業計画について
教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第2回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第3回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第4回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第5回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第6回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第7回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第8回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第9回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第10回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第11回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第12回 教科書第10課～第21課までの講読と発音練習。2コマ一課のペースで行う。
- 第13回 総復習
- 第14回 総復習
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

康玉華・王徳珮著 興水優監修 『基礎中国語会話』改訂版 東方書店

【備考】

第1回で授業計画の詳細な説明を行う。

た
行

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅲ a 01 <春>	
汪 曉 京	1 単位

【講義概要】

使用するテキストは全部で15課、各課は語句の注釈、文法の解説、練習などの部分から構成している。会話文に文章体の課文も加え、読解力の向上にも配慮している。豊富なドリルを通して実力を養う。

【学習目標】

この授業では中国語の聞く力、話す力、理解力を一層高めることを目標とする。1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にやや難しい会話ができるように進めていく。

【講義計画】

- 第1回 導入
第1課
第2回 第1課
第3回 第2課
第4回 第2課
第5回 第3課
第6回 第3課
第7回 第4課
第8回 第4課
第9回 第5課
第10回 第5課
第11回 第6課
第12回 第6課
第13回 第7課
第14回 第7課

【成績評価の方法】

出席状況、勉強の態度、平素の小テストの評点と期末の試験の評点で総合的に評価します。【平常点40%（出席10点、小テスト30点）期末の試験60%】。出席回数が三分の二を満たさない者には、定期試験の成績如何にかかわらず単位は与えられない。

【教科書】

徐国玉 山田忠司 中国語実力アップ教本 白帝社

【参考文献】

中日辞書

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅲ a 02 <春>	
左 虹	1 単位

【講義概要】

中国社会に密接に関連した話題の文章を読みつつ、初級段階に続く文法事項を学ぶ。同時にリスニング等の訓練も行う。既習の文法事項を確認しながら、単文レベルの作文練習を徹底的に行い、中国語の文の組み立てに関する知識を確かなものにするを目的とする。

【学習目標】

中国の社会・生活・文化に関連した文章を読みつつ、初級段階に続くさまざまな表現を学ぶ。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
第1課（中国人の食生活／前置詞、助動詞など）
第2回 第1課（中国人の食生活／前置詞、助動詞など）
第3回 第1課（中国人の食生活／前置詞、助動詞など）発音練習・確認練習
第4回 第2課（家族間のあいさつ／結果補語、接続詞など）
第5回 第2課（家族間のあいさつ／結果補語、接続詞など）
第6回 第2課（家族間のあいさつ／結果補語、接続詞など）発音練習・確認練習
第7回 総合復習・中間確認試験
第8回 第3課（中国人同士のつきあい／回数表現など）
第9回 第3課（中国人同士のつきあい／回数表現など）
第10回 第3課（中国人同士のつきあい／回数表現など）発音練習・確認練習
第11回 第4課（交際上のマナー／受身、禁止、比較など）
第12回 第4課（交際上のマナー／受身、禁止、比較など）
第13回 第4課（交際上のマナー／受身、禁止、比較など）
第14回 第4課（交際上のマナー／受身、禁止、比較など）発音練習・確認練習
第15回 総合復習・学期末確認試験

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 40% 出席 20%
定期試験（筆記）の成績と平常成績で総合評価する。
平常成績：出席状況、授業への参加態度、随時行われる小テストの成績など。

【教科書】

池上貞子・張国路 中国ってこんな国！ 朝日出版社

【参考文献】

中検準4級レベルの語彙と文法に絞った教材を参考する

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅲ a 03 <春>	
林 宏 作	1 単位

【講義概要】

中国語Ⅰ・中国語Ⅱで修得した発音と語法をふまえて、語彙を増やし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況及び宿題の提出をもって平常点とする。

【講義計画】

- 第1回 1. はじめに ガイダンス ・授業計画について
- 第2回 復習編（一）の講読
- 第3回 復習編（一）の発音練習
- 第4回 復習編（一）の練習問題
- 第5回 復習編（二）の講読
- 第6回 復習編（二）の発音練習
- 第7回 復習編（二）の練習問題
- 第8回 復習編（三）の講読
- 第9回 復習編（三）の発音練習
- 第10回 復習編（三）の練習問題
- 第11回 復習編（四）の講読
- 第12回 復習編（四）の発音練習
- 第13回 復習編（四）の練習問題
- 第14回 復習編（五）の講読
- 第15回 復習編（五）の発音練習

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

丁秀山、坂井田ひとみ 編著『日常的対話』金星堂

【参考文献】

香坂順一 編『簡約 現代中国語辞典』光生館

【備考】

第1回で授業計画の詳細な説明を行う。

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅲ b 01 <春>	
徐 国 玉	1 単位

【講義概要】

全部で15課、どの課も語句の注釈、文法の解説、練習などの部分から構成している。会話文に文章体の課文も加え、読解の向上にも配慮。豊富なドリルを通して実力を養う。

【学習目標】

この授業では中国語の聞く力、話す力、理解力を一層高めることを目標とする。1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にちょっと難しい会話ができるように進めていく。

【講義計画】

- 第1回 第1課
- 第2回 第1課
- 第3回 第2課
- 第4回 第2課
- 第5回 第3課
- 第6回 第3課
- 第7回 第4課
- 第8回 第4課
- 第9回 第5課
- 第10回 第5課
- 第11回 第6課
- 第12回 第6課
- 第13回 第7課
- 第14回 第7課
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 10%

出席状況、勉強の態度、平素の小テストの評点と期末の試験の評点で総合的に評価します。【平常点40%（出席10点、小テスト30点、期末の試験60点）】三分の二以上出席しなかった者には、定期試験の成績にかかわらず、単位は与えられない。

【教科書】

徐国玉 山田忠司 実力アップ中国語教本 白帝社

た
行

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅲ b 02 <春>	
徐 国 玉	1 単位

【講義概要】

全部で15課、どの課も語句の注釈、文法の解説、練習などの部分から構成している。会話文に文章体の課文も加え、読解の向上にも配慮。豊富なドリルを通して実力を養う。

【学習目標】

この授業では中国語の聞く力、話す力、理解力を一層高めることを目標とする。1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にちょっと難しい会話ができるように進めていく。

【講義計画】

第1回 第1課
 第2回 第1課
 第3回 第2課
 第4回 第2課
 第5回 第3課
 第6回 第3課
 第7回 第4課
 第8回 第4課
 第9回 第5課
 第10回 第5課
 第11回 第6課
 第12回 第6課
 第13回 第7課
 第14回 第7課
 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 10%
 出席状況、勉強の態度、平素の小テストの評点と期末の試験の評点で総合的に評価します。【平常点40%（出席10点、小テスト30点、期末の試験60点）】三分の二以上出席しなかった者には、定期試験の成績にかかわらず、単位は与えられない。

【教科書】

徐国玉 山田忠司 実力アップ中国語教本 白帝社

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅲ b 03 <春>	
林 宏 作	1 単位

【講義概要】

中国語Ⅰ・中国語Ⅱで修得した発音と語法をふまえて、語彙を増やし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況及び宿題の提出をもって平常点とする。

【講義計画】

第1回 はじめに ガイダンス ・授業計画について
 復習編（五）の練習問題
 第2回 中間試験
 第3回 応用編第一課の講読
 第4回 応用編第一課の発音練習
 第5回 応用編第一課の総合練習
 第6回 応用編第二課の講読
 第7回 応用編第二課の発音練習
 第8回 応用編第二課の総合練習
 第9回 応用編第三課の講読
 第10回 応用編第三課の発音練習
 第11回 応用編第三課の総合練習
 第12回 応用編第四課の講読
 第13回 応用編第四課の発音練習
 第14回 応用編第四課の総合練習
 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

丁秀山、坂井田ひとみ 編著『日常的対話』金星堂

【参考文献】

香坂順一 編『簡約 現代中国語辞典』光生館

【備考】

第1回で授業計画の詳細な説明を行う。

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅳ a 01 <秋>	
汪 暁 京	1 単位

【講義概要】

使用するテキストは全部で15課、各課は語句の注釈、文法の解説、練習などの部分から構成している。会話文に文章体の課文も加え、読解力の向上にも配慮している。豊富なドリルを通して実力を養う。

【学習目標】

この授業では中国語の聞く力、話す力、理解力を一層高めることを目標とする。1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にやや難しい会話ができるように進めていく。

【講義計画】

- 第1回 第8課
- 第2回 第8課
- 第3回 第9課
- 第4回 第9課
- 第5回 第10課
- 第6回 第10課
- 第7回 第11課
- 第8回 第11課
- 第9回 第12課
- 第10回 第12課
- 第11回 第13課
- 第12回 第14課
- 第13回 第15課
- 第14回 復習

【成績評価の方法】

出席状況、勉強の態度、平素の小テストの評点と期末の試験の評点で総合的に評価します。【平常点40%（出席10点、小テスト30点）期末の試験60%】。出席回数が三分の二を満たさない者には、定期試験の成績如何にかかわらず単位は与えられない。

【教科書】

徐国玉 山田忠司 中国語実力アップ教本 白帝社

【参考文献】

中日辞書

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅳ a 02 <秋>	
左 虹	1 単位

【講義概要】

中国社会に密接に関連した話題の文章を読みつつ、初級段階に続く文法事項を学ぶ。同時にリスニング等の訓練も行う。既習の文法事項を確認しながら、単文レベルの作文練習を徹底的に行い、中国語の文の組み立てに関する知識を確かなものにするを目的とする。

【学習目標】

中国の社会・生活・文化に関連した文章を読みつつ、初級段階に続くさまざまな表現を学ぶ。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション、中国語IIIの復習
- 第2回 第5課（中国人のレジャー、娯楽／過去の習慣、連動文など）
- 第3回 第5課（中国人のレジャー、娯楽／過去の習慣、連動文など）
- 第4回 第5課（中国人のレジャー、娯楽／過去の習慣、連動文など）発音・確認練習
- 第5回 第6課（中国の交通手段／動作の進行、可能補語など）
- 第6回 第6課（中国の交通手段／動作の進行、可能補語など）
- 第7回 第6課（中国の交通手段／動作の進行、可能補語など）発音・確認練習
- 第8回 中間確認テスト
- 第9回 第7課（通過儀礼／使役、変化の文末助詞など）
- 第10回 第7課（通過儀礼／使役、変化の文末助詞など）
- 第11回 第7課（通過儀礼／使役、変化の文末助詞など）発音・確認練習
- 第12回 第8課（慶事の赤、弔辞の白／方向補語など）
- 第13回 第8課（慶事の赤、弔辞の白／方向補語など）
- 第14回 第8課（慶事の赤、弔辞の白／方向補語など）発音・確認練習
- 第15回 学期末テスト

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 40% 出席 20%
定期試験（筆記）の成績と平常成績で総合評価する。
平常成績：出席状況、授業への参加態度、随時行われる小テストの成績など。

【教科書】

池上貞子・張国路 中国ってこんな国！ 朝日出版社

【参考文献】

中検準4級レベルの語彙と文法に絞った教材を参考する

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅳ a 03 <秋>	
林 宏 作	1 単位

【講義概要】

中国語Ⅰ・中国語Ⅱで修得した発音と語法をふまえて、語彙を増やし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況及び宿題の提出をもって平常点とする。

【講義計画】

- 第1回 1. はじめに ガイダンス ・授業計画について
 第2回 応用編第五課の講読
 第3回 応用編第五課の発音練習
 第4回 応用編第五課の総合練習
 第5回 応用編第六課の講読
 第6回 応用編第六課の発音練習
 第7回 応用編第六課の総合練習
 第8回 応用編第七課の講読
 第9回 応用編第七課の発音練習
 第10回 応用編第七課の総合練習
 第11回 応用編第八課の講読
 第12回 応用編第八課の発音練習
 第13回 応用編第八課の総合練習
 第14回 応用編第九課の講読
 第15回 応用編第九課の発音練習

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

丁秀山、坂井田ひとみ 編著『日常的対話』金星堂

【参考文献】

香坂順一 編『簡約 現代中国語辞典』光生館

【備考】

第1回で授業計画の詳細な説明を行う。

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅳ b 01 <秋>	
徐 国 玉	1 単位

【講義概要】

全部で15課、どの課も語句の注釈、文法の解説、練習などの部分から構成している。会話文に文章体の課文も加え、読解の向上にも配慮。豊富なドリルを通して実力を養う。

【学習目標】

この授業では中国語の聞く力、話す力、理解力を一層高めることを目標とする。1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にちょっと難しい会話ができるように進めていく。

【講義計画】

- 第1回 第8課
 第2回 第8課
 第3回 第9課
 第4回 第9課
 第5回 第10課
 第6回 第10課
 第7回 第11課
 第8回 第11課
 第9回 第12課
 第10回 第12課
 第11回 第13課
 第12回 第14課
 第13回 第15課
 第14回 復習
 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 10%

出席状況、勉強の態度、平素の小テストの評点と期末の試験の評点で総合的に評価します。【平常点40%（出席10点、小テスト30点、期末の試験60点）】三分の二以上出席しなかった者には、定期試験の成績にかかわらず、単位は与えられない。

【教科書】

前期と同じ教科書使用

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅳ b 02 <秋>	
徐 国 玉	1 単位

【講義概要】

全部で15課、どの課も語句の注釈、文法の解説、練習などの部分から構成している。会話文に文章体の課文も加え、読解の向上にも配慮。豊富なドリルを通して実力を養う。

【学習目標】

この授業では中国語の聞く力、話す力、理解力を一層高めることを目標とする。1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にちょっと難しい会話ができるように進めていく。

【講義計画】

- 第1回 第7課
- 第2回 第7課
- 第3回 第8課
- 第4回 第8課
- 第5回 第9課
- 第6回 第9課
- 第7回 第10課
- 第8回 第10課
- 第9回 第11課
- 第10回 第11課
- 第11回 第12課
- 第12回 第13課
- 第13回 第14課
- 第14回 第15課
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 10%

出席状況、勉強の態度、平素の小テストの評点と期末の試験の評点で総合的に評価します。【平常点40%（出席10点、小テスト30点、期末の試験60点）】 三分の二以上出席しなかった者には、定期試験の成績にかかわらず、単位は与えられない。

【教科書】

前期と同じ教科書使用

科目名 クラス 講義区分	
中国語Ⅳ b 03 <秋>	
林 宏 作	1 単位

【講義概要】

中国語Ⅰ・中国語Ⅱで修得した発音と語法をふまえて、語彙を増やし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況及び宿題の提出をもって平常点とする。

【講義計画】

- 第1回 はじめに ガイダンス ・授業計画について
応用編第九課の総合練習
- 第2回 中間試験
- 第3回 応用編第十課の講読
- 第4回 応用編第十課の発音練習
- 第5回 応用編第十課の総合練習
- 第6回 応用編第十一課の講読
- 第7回 応用編第十一課の発音練習
- 第8回 応用編第十一課の総合練習
- 第9回 応用編第十二課の講読
- 第10回 応用編第十二課の発音練習
- 第11回 応用編第十二課の総合練習
- 第12回 応用編第十三課の講読
- 第13回 応用編第十三課の発音練習
- 第14回 応用編第十三課の総合練習
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

丁秀山、坂井田ひとみ 編著『日常的対話』金星堂

【参考文献】

香坂順一 編『簡約 現代中国語辞典』光生館

【備考】

第1回で授業計画の詳細な説明を行う。

科目名 クラス 講義区分	
中国史Ⅰ <春>	
石 黒 亜 維	2単位

【講義概要】

経済的な急成長をとげ、政治的にも影響力を拡大しつつある隣国中国。近年、日中関係の重要性が様々な局面において議論されているが、歴史を繙けば、その関係の始まりは古代にまで遡り、また相互認識・交流のあり方も様々に変化してきた。現代中国および日中関係に対する理解を深めるためには、中国はもとより日中間のこの長い動的な歴史をまず理解する必要がある。本講義では古代中国から明末清初までの中国史を概観する。中国に対する理解を深めるため、映像資料等も適宜活用していく。

【学習目標】

- (1) 通史としての基本的な事象を把握すること。
- (2) 具体的なトピックスを通して各時代の特徴を考察すること。

【講義計画】

- 第1回 「中国」とは何か
- 第2回 古代文明と初期王朝①
- 第3回 古代文明と初期王朝②
- 第4回 春秋戦国から秦の統一へ①
- 第5回 春秋戦国から秦の統一へ②
- 第6回 漢帝国と周辺地域①
- 第7回 漢帝国と周辺地域②
- 第8回 帝国の分裂と再統合①
- 第9回 帝国の分裂と再統合②
- 第10回 隋・唐帝国の形成①
- 第11回 隋・唐帝国の形成②
- 第12回 宋と北方諸民族①
- 第13回 宋と北方諸民族②
- 第14回 元から明へ①
- 第15回 元から明へ②

【成績評価の方法】

筆記試験、出席状況から総合的に判断する。

【教科書】

岸本美緒 中国社会の歴史的展開 放送大学教育振興会

【参考文献】

尾形勇、岸本美緒編『中国史』山川出版、1998年
山根幸夫『中国史研究入門』上下、山川出版社、1986年

科目名 クラス 講義区分	
中国史Ⅱ <秋>	
石 黒 亜 維	2単位

【講義概要】

19世紀半ば以来、中国は列強諸国からの支配を受け、その後隣国日本との戦争によって甚大なる被害を被り、中華人民共和国の成立後も国際的・国内的諸矛盾のなかにおかれるなど、中国にとって20世紀はまさに激動の世紀であった。本講義では中国の近現代史を東アジア諸国との関係を視野に入れつつ多角的にとりあげる。

【学習目標】

- (1) 20世紀の中国社会はどのようなパラダイムで把握されてきたのかを理解する。
- (2) 日中関係はどのような変遷をたどったのか考察する。
- (3) グローバル化の流れにある中国社会の変容を歴史的に検討する。

【講義計画】

- 第1回 清朝の成立とその治世①
- 第2回 清朝の成立とその治世②
- 第3回 「西洋の衝撃」と中国の反応①
- 第4回 「西洋の衝撃」と中国の反応②
- 第5回 辛亥革命と中華民国の成立①
- 第6回 辛亥革命と中華民国の成立②
- 第7回 中国ナショナリズムの高揚①
- 第8回 中国ナショナリズムの高揚②
- 第9回 第二次世界大戦と中国①
- 第10回 第二次世界大戦と中国②
- 第11回 内戦から新中国誕生へ①
- 第12回 内戦から新中国誕生へ②
- 第13回 中華人民共和国の27年①
- 第14回 中華人民共和国の27年②
- 第15回 現代中国の新たな展開

【成績評価の方法】

筆記試験、出席状況から総合的に判断する。

【教科書】

岸本美緒 中国社会の歴史的展開 放送大学教育振興会

【参考文献】

池田誠他編『図説中国近現代史（第2版）』法律文化社、2002年

科目名	クラス	講義区分
中国体験特講 <春>		
中野瑞彦	2単位	

【講義概要】

この授業では、今や「世界の工場」から「世界の市場」に躍進した中国の経済や社会、中国の人々に関わってこられた方々に様々な経験と体験を講義していただく。日本から中国への企業進出に長く携わってこられた方や、中国にわたり苦勞して起業された方、日中間を行き来しながらビジネスに関わってこられた方に加え、私たち桃山の先輩で現に中国ビジネス社会で活躍されている方などから、実際の現場を通して見た中国の実際を話していただく。なお、講義内容は各講師の都合により変更する場合があります。

【学習目標】

この授業は、講師の方々の話を通して、中国の生き活きとして姿、中国という舞台でチャレンジする意味、中国および中国の人々との関わり方などについて受講生が関心を高めるとともに理解を深めることを目標としている。更に、講師の方々のキャリアを通して、この授業をこれからの自分のキャリア・パスについて考える良い機会としてほしい。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中国のマーケット
- 第3回 南通での化学産業
- 第4回 上海での起業経験
- 第5回 中国への企業進出
- 第6回 中国の運輸業
- 第7回 中国での事業展開
- 第8回 中国の合弁企業
- 第9回 南通の繊維産業
- 第10回 中国のビール市場
- 第11回 中国事情
- 第12回 大阪府と上海市
- 第13回 中国での事業体験
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 30% 出席 70%
出席と毎回の提出物を重視する。無断欠席は認めない。

【教科書】

特になし

【参考文献】

特になし

【備考】

インテグレーション科目

科目名	クラス	講義区分
中国の自然と地域 <秋>		
馬桂芸	2単位	

【講義概要】

中国で発生するさまざまな社会現象をより深く理解するためには、同国の自然・歴史・政治・経済・人文などの基本知識が必要不可欠である。本講義は中国の自然と地域を中心に同国の国土に関する基本知識を提供する。本講義の前半では中国の気候、人口、河川、海洋、自然資源、農村、都市という総合的な視点から中国の自然地理の全体像を紹介する。後半では、中国全体を7つの地域（華北・華東・華中・華南・東北部・西北部・西南部）に区分し、それぞれの地域の特徴および中国全体の中における位置づけを紹介する。

【学習目標】

本講義を通じて、中国の自然地理の輪郭を把握し、中国に関する様々な問題の多様性と複雑性に対して理解を深める。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス、中国の自然と地域の概要
- 第2回 多様な気候・地形と行政区分
- 第3回 人口大国と多民族国家
- 第4回 中国の水環境—河川・海洋を中心に
- 第5回 豊富な自然資源と中国のエネルギー問題
- 第6回 成長する中国の大都市圏
- 第7回 中国7大経済区1—華北
- 第8回 中国7大経済区2—華東
- 第9回 中国7大経済区3—華中
- 第10回 中国7大経済区4—華南
- 第11回 中国7大経済区5—東北部
- 第12回 中国7大経済区6—西北部
- 第13回 中国7大経済区7—西南部
- 第14回 総復習
- 第15回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 100%

【教科書】

基本的にテキストは使用しない。
授業中に配布するプリントを中心に講義を行う。

【参考文献】

- 中国地理概論（単行本）
季 増民（著）
単行本：199ページ
出版社：ナカニシヤ出版（2008/10）
ISBN-10：4779502802
ISBN-13：978-4779502804
発売日：2008/10
定価：2400円＋税
- 中国情報ハンドブック 2008年版（2008）（単行本）
21世紀中国総研（編さん）
価格：¥ 3,150（税込）
単行本：629ページ
出版社：蒼蒼社（2008/08）
ISBN-10：4883600785
ISBN-13：978-4883600786
発売日：2008/08
- 中国経済地理（単行本）
胡 欣（著），李 夫珍（著），邵 秦（著），青木 英一（翻訳），
北村 嘉行（翻訳），上野 和彦（翻訳）
価格：¥ 1,165
単行本：412ページ
出版社：大明堂（1993/07）
ISBN-10：4470500402
ISBN-13：978-4470500406
発売日：1993/07
- 中国全省を読む地図—22省・4直轄市・5自治区・香港・マカオ・台湾（新潮文庫）（文庫）
莫 邦富（著，原著）
価格：¥ 500（税込）
文庫：282ページ
出版社：新潮社（2001/11）
ISBN-10：4101300232
ISBN-13：978-4101300238
発売日：2001/11

た
行

科目名 クラス 講義区分	
中国ビジネスインターンシップ 01 <春>	
竹 歳 一 紀	8 単位

【講義概要】

ビジネスインターンシップは、中国南通における留学研修のハイライトである。留学研修前半で鍛えた中国語も使いながら、現地に進出する日系企業で、中国ビジネスのさまざまな側面について実地に学ぶ。

インターンシップには自らテーマを定めて取り組み、後にその成果を報告書にまとめる。

【学習目標】

1. 「企業で働く」とはどういうことかを実地に学ぶ
2. 中国進出企業のマネジメントの実態を学ぶ
3. 現地従業員とのコミュニケーションを通して中国社会の一端を学ぶ

【講義計画】

第1回 詳細については、現地において説明し、指示する。

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%
インターンシップへの参加状況および日誌・レポートの作成状況などから総合的に評価する。

【備考】

<07生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
中国ビジネスインターンシップ 02 <秋>	
唐 成	8 単位

【講義概要】

留学研修前半で鍛えた中国語も使いながら、現地に進出する日系企業で、中国ビジネスのさまざまな側面について実地に学んでいく。またみずからテーマを定めて、インターンシップに取り組み、後にその成果を報告書にまとめる。

【学習目標】

ビジネスインターンシップは、中国南通における留学研修のハイライトである。これを通じて、中国ビジネスの「カギ」を発見することである。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中国経済の現状
- 第3回 「世界工場」としての中国
- 第4回 「世界市場」としての中国
- 第5回 外資系企業の対中進出について
- 第6回 南通市およびその周辺地域の経済と社会に関する学習(I)
- 第7回 南通市およびその周辺地域の経済と社会に関する学習(II)
- 第8回 南通市の外資系企業について
- 第9回 インターンシップ 企業の研究(I)
- 第10回 インターンシップ 企業の研究(II)
- 第11回 インターンシップ 企業の研究(III)
- 第12回 インターンシップ 企業の研究(IV)
- 第13回 インターンシップ 企業の研究(V)
- 第14回 インターンシップ 企業の研究(VI)
- 第15回 まとめ(レポートの提出)

【成績評価の方法】

出席 40%
各種課題の取り込み 40%
レポート (20%)

【参考文献】

テキストは第1回目に説明する。

【備考】

<08生>のみ履修可

科目名	クラス	講義区分
中国貿易投資事情 <春>		
上野 勝男	2単位	

【講義概要】

この科目は、液晶ディスプレイなどの独自技術で躍進を続けるシャープ株式会社の全面的な協力を得ておこなうものです。

授業では、(1)シャープのこれまでの歩みから経営の理念・戦略を多角的に講義します。それと同時に、(2)シャープは、経済の台頭著しい中国に早くから生産拠点を構え、事業を発展させています。この中国戦略について、中国に進出する際にクリアしなければならなかった問題を、具体的な苦勞のエピソードを交えながらわかりやすく述べていく予定です。

【学習目標】

授業を通じて、中国経済・貿易投資の現状を理解すると共に、日本企業の対中国戦略について、今後の展望について関心と理解を深めることを目標とします。中国経済に関心のある諸君はもちろん、シャープやエレクトロニクス産業に興味ともつ諸君にも大いに役立つはずで

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
 以下は2008年度の講義計画です。2009年度もほぼ同じ内容で進める予定ですが、第1回の授業でスケジュールを知らせますので確認してください。
- 第2回 シャープの中国事業戦略(1)
 第3回 シャープの中国事業戦略(2)
 第4回 シャープの中国事業戦略(3)
 第5回 中国ビジネス解説(1)
 第6回 シャープの中国事業戦略(4)
 第7回 シャープの中国事業戦略(5)
 第8回 シャープの中国マーケティング(1)
 第9回 シャープのオンリーワン戦略
 第10回 シャープの中国マーケティング(2)
 第11回 シャープの中国マーケティング(3)
 第12回 中国ビジネス解説(2)
 第13回 シャープの人事制度
 第14回 講義のまとめ

【成績評価の方法】

- (1)出席(聴講態度、出席カードへの記入) 40%
 (2)課題(レポート2~3回) 30%
 (3)試験(授業の最終に予定) 30%
 都合により評価配分を多少変更することがあります。

【備考】

授業中に私語をするなど、聴講態度が悪いと判断された場合は、教室からの退去を命じます。

また悪質な場合はただちに不合格を宣告しますので、くれぐれも注意してください。

インテグレーション科目

科目名	クラス	講義区分
中小企業論 <春集>		
義永 忠一	4単位	

【講義概要】

戦後最長となる景気拡大期間を経験した我が国経済ですが、昨年2008年から経済環境は激変しています。このシラバス作成後も、環境変化は様々な展開を見せていることでしょう。中小企業論では、現状における中小企業に関する様々な問題を追いながら、現在の課題について講義を展開します。

【学習目標】

特に製造業を中心に取り上げ講義を行います。これまで中小企業論が注目してきた「問題性」の認識と現在の課題を広く把握することを学習の目標とします。また講義において注目する中小企業の現状を、多角的に分析することができるようになることを到達目標としたい。

【講義計画】

- 第1回 「中小企業論」とは何か～映像からみる中小企業研究の課題～
 以下のシラバスにおいて、教科書以外に、ビデオ、独自資料を使った講義も行います。また、小テスト実施の関係から、講義計画の進捗が変更される場合があります。
- 第2回 小テストに関する説明～新聞チェック：あなた自身の分析軸を作る～
- 第3回 中小企業を捉える視点～中小企業研究史1～
 第4回 中小企業を捉える視点～中小企業研究史2～
 第5回 変化する中小企業(1-1) 中堅企業・ベンチャー企業
 第6回 変化する中小企業(1-2) 中堅企業・ベンチャー企業
 第7回 変化する中小企業(2-1) 生産システム論の理解
 第8回 変化する中小企業(2-2) 生産システム論の理解
 第9回 中小企業をめぐる環境の変化-情報化(1-1) SCM理解
 第10回 中小企業をめぐる環境の変化-情報化(1-2) SCM理解
 第11回 中小企業をめぐる環境の変化-情報化(2-1) 1990年代後半の事例
 第12回 中小企業をめぐる環境の変化-情報化(2-2) 2008年の追加検証事例
 第13回 中小企業をめぐる環境の変化-グローバル化(1-1) 1980年代の映像
 第14回 中小企業をめぐる環境の変化-グローバル化(1-2) 1980年代の理解
 第15回 中小企業をめぐる環境の変化-グローバル化(2-1) 2000年以降の変化
 第16回 中小企業をめぐる環境の変化-グローバル化(2-2) 2000年以降の理解
 第17回 環境変化をどのように捉えるのか(小括1)
 第18回 環境変化をどのように捉えるのか(小括2)
 第19回 産業集積への注目 研究の背景
 第20回 産業集積に関する事例(1-1) 東大阪地域
 第21回 産業集積に関する事例(1-2) 東大阪地域
 第22回 産業集積に関する事例(1-3) 東大阪地域
 第23回 産業集積に関する事例(2-1) その他の地域
 第24回 産業集積に関する事例(2-2) その他の地域
 第25回 中小企業政策の現状1
 第26回 中小企業政策の現状2
 第27回 まとめ1
 第28回 まとめ2

【成績評価の方法】

試験 100%
 毎講義開始15分間、当日の日本経済新聞のチェックを行います。当日の日本経済新聞朝刊を購入して講義に臨んでください。不定期に、この新聞チェックに関する小テストを実施します。小テスト(40%)と学期末試験(60%)で評価します。小テスト実施の関係から、上記の授業計画の進捗が変更される場合があります。

【教科書】

植田浩史編著 中小企業・ベンチャー企業論 有斐閣

【参考文献】

適宜、指示します。

科目名 クラス 講義区分	
朝鮮語 I a 01 <春>	
尹 英 和	1 単位

【講義概要】

大韓民国で使われる朝鮮語(以下韓国語)を中心に授業を進めます。韓国語の文字及び発音を日本語の文字及び発音と比較しながら繰り返し練習します。

【学習目標】

日常生活でよく使う挨拶表現を用い、韓国語で簡単な自己紹介が出来る。

【講義計画】

- 第1回 韓国語の特徴の概要。8つの基本母音。
- 第2回 9つの基本頭子音、頭子音の語中での有声音化
- 第3回 や行の二重母音、基本挨拶表現。
- 第4回 わ行の二重母音、頭子音(激音・濃音)
- 第5回 末子音(パッチム)、日本語のハングル表記
- 第6回 復習、小テスト
- 第7回 助詞(が・は)の使い分け、9課
- 第8回 丁寧体1(하니다/습니다)
- 第9回 自己紹介、指示代名詞
- 第10回 丁寧体2(예요/이에요)
- 第11回 10課、数字表現
- 第12回 11課、否定表現(이/가 아니예요)、小テスト
- 第13回 12課、買い物場面(～をください)
- 第14回 総復習
- 第15回 期末テスト

【成績評価の方法】

試験 80% 出席 20%

【教科書】

長谷川由紀子 コミュニケーション韓国語会話編1 白帝社

科目名 クラス 講義区分	
朝鮮語 I a 02 <春>	
尹 英 和	1 単位

【講義概要】

大韓民国で使われる朝鮮語(以下韓国語)を中心に授業を進めます。韓国語の文字及び発音を日本語の文字及び発音と比較しながら繰り返し練習します。

【学習目標】

日常生活でよく使う挨拶表現を用い、韓国語で簡単な自己紹介が出来る。

【講義計画】

- 第1回 韓国語の特徴の概要。8つの基本母音。
- 第2回 9つの基本頭子音、頭子音の語中での有声音化
- 第3回 や行の二重母音、基本挨拶表現。
- 第4回 わ行の二重母音、頭子音(激音・濃音)
- 第5回 末子音(パッチム)、日本語のハングル表記
- 第6回 復習、小テスト
- 第7回 助詞(が・は)の使い分け、9課
- 第8回 丁寧体1(하니다/습니다)
- 第9回 自己紹介、指示代名詞
- 第10回 丁寧体2(예요/이에요)
- 第11回 10課、数字表現
- 第12回 11課、否定表現(이/가 아니예요)、小テスト
- 第13回 12課、買い物場面(～をください)
- 第14回 総復習
- 第15回 期末テスト

【成績評価の方法】

試験 80% 出席 20%

【教科書】

長谷川由紀子 コミュニケーション韓国語会話編1 白帝社

科目名 クラス 講義区分	
朝鮮語 I b 01 <春>	
徳 成 外志子	1 単位

【講義概要】

朝鮮半島の文字「ハングル」は、わずか24の音素文字（基本母音字10、基本子音字14）の組み合わせによってできていて、とても合理的で平易です。また、「てにをは」があることや、語順などの文法事項も日本語に非常によく似ていて、日本人にとって最も学びやすい外国語です。

この授業では、朝鮮語の初学者を対象に、文字・発音・基礎的文法事項を初歩から学習します。初めにハングル文字の読み・書きを徹底して身につけ、以後も常に音読を重視します。テキストに沿って7課まで学習し、ハムニダ体（上称形）名詞文、名詞文の否定と尊敬、ハムニダ体用言文、用言文の否定などを学び、辞書を引けるようにし、あいさつや、ならった範囲での簡単な作文や会話も行えるようにします。また折に触れて、朝鮮半島の社会や文化等に対しても理解を深めるようにします。

授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、北朝鮮で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきます。

【学習目標】

朝鮮語の文字が発音し書けるようになる。基礎的文法事項を習得し、辞書が引けるようになる。簡単なあいさつや自己紹介、習った範囲での作文・読解などができる。

【講義計画】

- 第1回 年間及び今学期の授業のガイダンス、朝鮮語の特徴、基本母音字
- 第2回 基本子音字、反切表
- 第3回 反切表復習、濃音、合成母音字
- 第4回 終声、2文字の終声
- 第5回 連音、ハングルによる日本語表記
- 第6回 いろいろなあいさつ、総合復習問題
- 第7回 第5課 田中です：名詞文
- 第8回 第5課 田中です：名詞文
- 第9回 第6課 私のカバンではありません：名詞文の否定と尊敬
- 第10回 第6課 私のカバンではありません：名詞文の否定と尊敬
- 第11回 第7課 どこにありますか：用言文の肯定
- 第12回 第7課 どこにありますか：用言文の否定
- 第13回 第7課 どこにありますか：用言文・助詞など
- 第14回 今学期の総復習、歌など
- 第15回 期末テスト

【成績評価の方法】

期末テスト（60%）、平常の出席、小テスト、宿題、発音・聞き取りのチェックなど（40%）を総合的に評価する。

【教科書】

生越直樹・曹喜澈『ことばの架け橋』（CD付き）白帝社

【参考文献】

油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館。『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館。その他、授業で適宜紹介する。

【備考】

必ず予習・復習する。出てきた単語や文章は、発音し、書きながら覚える。街や身の回りでも韓国語を見かけるから、応用してみる。

科目名 クラス 講義区分	
朝鮮語 I b 02 <春>	
徳 成 外志子	1 単位

【講義概要】

朝鮮半島の文字「ハングル」は、わずか24の音素文字（基本母音字10、基本子音字14）の組み合わせによってできていて、とても合理的で平易です。また、「てにをは」があることや、語順などの文法事項も日本語に非常によく似ていて、日本人にとって最も学びやすい外国語です。

この授業では、朝鮮語の初学者を対象に、文字・発音・基礎的文法事項を初歩から学習します。初めにハングル文字の読み・書きを徹底して身につけ、以後も常に音読を重視します。テキストに沿って7課まで学習し、ハムニダ体（上称形）名詞文、名詞文の否定と尊敬、ハムニダ体用言文、用言文の否定などを学び、辞書を引けるようにし、あいさつや、ならった範囲での簡単な作文や会話も行えるようにします。また折に触れて、朝鮮半島の社会や文化等に対しても理解を深めるようにします。

授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、北朝鮮で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきます。

【学習目標】

朝鮮語の文字が発音し書けるようになる。基礎的文法事項を習得し、辞書が引けるようになる。簡単なあいさつや自己紹介、習った範囲での作文・読解などができる。

【講義計画】

- 第1回 年間及び今学期の授業のガイダンス、朝鮮語の特徴、基本母音字
- 第2回 基本子音字、反切表
- 第3回 反切表復習、濃音、合成母音字
- 第4回 終声、2文字の終声
- 第5回 連音、ハングルによる日本語表記
- 第6回 いろいろなあいさつ、総合復習問題
- 第7回 第5課 田中です：名詞文
- 第8回 第5課 田中です：名詞文
- 第9回 第6課 私のカバンではありません：名詞文の否定と尊敬
- 第10回 第6課 私のカバンではありません：名詞文の否定と尊敬
- 第11回 第7課 どこにありますか：用言文の肯定
- 第12回 第7課 どこにありますか：用言文の否定
- 第13回 第7課 どこにありますか：用言文・助詞など
- 第14回 前期の総復習、歌など
- 第15回 前期末テスト

【成績評価の方法】

期末テスト（60%）、平常の出席、小テスト、宿題、発音・聞き取りのチェックなど（40%）を総合的に評価する。

【教科書】

生越直樹・曹喜澈『ことばの架け橋』（CD付き）白帝社

【参考文献】

油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館。『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館。その他、授業で適宜紹介する。

【備考】

必ず予習・復習する。出てきた単語や文章は、発音し、書きながら覚える。街や身の回りでも韓国語を見かけるから、応用してみる。

科目名 クラス 講義区分	
朝鮮語Ⅱ a 01 <秋>	
尹 英 和	1 単位

【講義概要】

大韓民国で使われる朝鮮語（以下韓国語）を中心に授業を進めます。韓国語の文字及び発音を日本語の文字及び発音と比較しながら繰り返し練習します。

【学習目標】

日常生活でよく使う挨拶表現を用い、韓国語で簡単な自己紹介が出来る。

【講義計画】

- 第1回 存在の有無 (있어요/없어요)
- 第2回 誕生日及び歳をたずね合う、指示ゲーム (-세요/으세요)
- 第3回 時間を表す表現 (언제)
- 第4回 単語帳 (スポーツ)
- 第5回 丁寧体 (-아요/어요)
- 第6回 小テスト、質問と答え：週末たいてい何をしていますか？
- 第7回 好き・嫌い表現
- 第8回 否定表現 (안+丁寧表現)
- 第9回 否定表現 (이지 않아요)
- 第10回 丁寧過去体 (-았어요/였어요)
- 第11回 否定表現 (못+丁寧表現)
- 第12回 小テスト、質問と答え：週末何をしましたか？
- 第13回 希望表現
- 第14回 総復習
- 第15回 期末テスト

【成績評価の方法】

試験 80% 出席 20%

【教科書】

長谷川由紀子 コミュニケーション韓国語会話編1 白帝社

科目名 クラス 講義区分	
朝鮮語Ⅱ a 02 <秋>	
尹 英 和	1 単位

【講義概要】

大韓民国で使われる朝鮮語（以下韓国語）を中心に授業を進めます。韓国語の文字及び発音を日本語の文字及び発音と比較しながら繰り返し練習します。

【学習目標】

日常生活でよく使う挨拶表現を用い、韓国語で簡単な自己紹介が出来る。

【講義計画】

- 第1回 存在の有無 (있어요/없어요)
- 第2回 誕生日及び歳をたずね合う、指示ゲーム (-세요/으세요)
- 第3回 時間を表す表現 (언제)
- 第4回 単語帳 (スポーツ)
- 第5回 丁寧体 (-아요/어요)
- 第6回 小テスト、質問と答え：週末たいてい何をしていますか？
- 第7回 好き・嫌い表現
- 第8回 否定表現 (안+丁寧表現)
- 第9回 否定表現 (이지 않아요)
- 第10回 丁寧過去体 (-았어요/였어요)
- 第11回 否定表現 (못+丁寧表現)
- 第12回 小テスト、質問と答え：週末何をしましたか？
- 第13回 希望表現
- 第14回 総復習
- 第15回 期末テスト

【成績評価の方法】

試験 80% 出席 20%

【教科書】

長谷川由紀子 コミュニケーション韓国語会話編1 白帝社

科目名 クラス 講義区分	
朝鮮語Ⅱ b 01 <秋>	
徳 成 外志子	1 単位

【講義概要】

朝鮮語 1bで学習した内容を定着させながら、さらに次の段階の文法事項を系統的に学習していきます。具体的には、テキストに沿って8課から12課の前半までを学習し、数詞・疑問詞の使い方、尊敬形、連用形・へヨ体（略待上称形）、へヨ体の尊敬形、過去形などを学びます。韓国語の読解力を向上させることを主としますが、すらすら読めるよう発音も重視し、作文や会話も取り入れ総合的に韓国語能力を向上させていきます。また折に触れて、朝鮮半島の社会や文化等に対しても理解を深めるようにします。

授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、北朝鮮で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきます。

【学習目標】

朝鮮語の文字がスムーズに読めるようになる。数詞・疑問詞の使い方、尊敬形、連用形・へヨ体（略待上称形）、へヨ体の尊敬形、過去形などの基礎的文法事項を習得し、辞書を引きながら簡単な朝鮮語の文章が読解でき、簡単な作文や会話も行える。

【講義計画】

第1回	第8課	1万3千ウォンです：漢数詞、年月日など
第2回	第8課	1万3千ウォンです：固有数詞、時間など
第3回	第8課	1万3千ウォンです：疑問詞、助詞など
第4回	第8課	1万3千ウォンです、総合復習問題
第5回	第9課	どこに行かれますか：尊敬形
第6回	第9課	どこに行かれますか：尊敬形
第7回	第10課	もう少し教えてください：連用形
第8回	第10課	もう少し教えてください：連用形の縮約、へヨ体
第9回	第10課の復習、およびビデオ教材など	
第10回	第11課	ちょっとお待ちください：へヨ体の尊敬形
第11回	第11課	ちょっとお待ちください：へヨ体の尊敬形
第12回	第12課	何をなさいましたか：過去形
第13回	第12課	何をなさいましたか：過去形
第14回	後期の総復習	
第15回	期末テスト	

【成績評価の方法】

期末テスト（60%）、平常の出席、小テスト、宿題、発音・聞き取りのチェックなど（40%）を総合的に評価する。

【教科書】

生越直樹・曹喜澈『ことばの架け橋』（CD付き）白帝社

【参考文献】

油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館。『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館。その他、授業で適宜紹介する。

【備考】

必ず予習・復習する。出てきた単語や文章は、発音し、書きながら覚える。街や身の回りでも韓国語を見かけるから、応用してみる。

科目名 クラス 講義区分	
朝鮮語Ⅱ b 02 <秋>	
徳 成 外志子	1 単位

【講義概要】

朝鮮語 1bで学習した内容を定着させながら、さらに次の段階の文法事項を系統的に学習していきます。具体的には、テキストに沿って8課から12課の前半までを学習し、数詞・疑問詞の使い方、尊敬形、連用形・へヨ体（略待上称形）、へヨ体の尊敬形、過去形などを学びます。韓国語の読解力を向上させることを主としますが、すらすら読めるよう発音も重視し、作文や会話も取り入れ総合的に韓国語能力を向上させていきます。また折に触れて、朝鮮半島の社会や文化等に対しても理解を深めるようにします。

授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、北朝鮮で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきます。

【学習目標】

朝鮮語の文字がスムーズに読めるようになる。数詞・疑問詞の使い方、尊敬形、連用形・へヨ体（略待上称形）、へヨ体の尊敬形、過去形などの基礎的文法事項を習得し、辞書を引きながら簡単な朝鮮語の文章が読解でき、簡単な作文や会話も行える。

【講義計画】

第1回	第8課	1万3千ウォンです：漢数詞、年月日など
第2回	第8課	1万3千ウォンです：固有数詞、時間など
第3回	第8課	1万3千ウォンです：疑問詞、助詞など
第4回	第8課	1万3千ウォンです、総合復習問題
第5回	第9課	どこに行かれますか：尊敬形
第6回	第9課	どこに行かれますか：尊敬形
第7回	第10課	もう少し教えてください：連用形
第8回	第10課	もう少し教えてください：連用形の縮約、へヨ体
第9回	第10課の復習、およびビデオ教材など	
第10回	第11課	ちょっとお待ちください：へヨ体の尊敬形
第11回	第11課	ちょっとお待ちください：へヨ体の尊敬形
第12回	第12課	何をなさいましたか：過去形
第13回	第12課	何をなさいましたか：過去形
第14回	後期の総復習	
第15回	期末テスト	

【成績評価の方法】

期末テスト（60%）、平常の出席、小テスト、宿題、発音・聞き取りのチェックなど（40%）を総合的に評価する。

【教科書】

生越直樹・曹喜澈『ことばの架け橋』（CD付き）白帝社

【参考文献】

油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館。『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館。その他、授業で適宜紹介する。

【備考】

必ず予習・復習する。出てきた単語や文章は、発音し、書きながら覚える。街や身の回りでも韓国語を見かけるから、応用してみる。

科目名 クラス 講義区分	
朝鮮語Ⅲ a <春>	
青野正明	1単位

【講義概要】

「朝鮮語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ基礎力をもとに、ⅢaとⅣaでは韓国における日常会話の文章表現を学びながら会話能力をさらに高めていく。一般的には、難しい表現を学んでも実践できないで終わる場合がほとんどである。そこで、実践の場で応用できるように基本会話をマスターすることに重点を置き、会話力の基礎的な骨組みを築く学習を進めていく。

【学習目標】

多くの人が話せるようになりたいと思いつつも、なかなか話せるまでに至らないのが実情である。そこで、この授業では基本会話をマスターすることにより会話力の基礎的な骨組みを築きあげることを目指す。この骨組みさえできていれば、それをもとに場面に合わせて応用することができるし、個人の努力次第でどんどんとレベルアップもできるのである。

【講義計画】

- 第1回 授業計画・成績評価等の説明、ステップ9
- 第2回 ステップ10・11
- 第3回 ステップ12・13
- 第4回 ステップ14・15
- 第5回 ステップ16・17
- 第6回 ステップ18・19
- 第7回 ステップ20・21
- 第8回 小テスト
- 第9回 ステップ22・23
- 第10回 ステップ24・25
- 第11回 ステップ26・17
- 第12回 ステップ28・29
- 第13回 小テスト
- 第14回 期末試験

【成績評価の方法】

期末テストと小テスト（2回の平均）は6：4の比率にして100点満点に換算する。その点数から2点×欠席回数、1点×遅刻回数を減点して最終的な成績を出す。

【教科書】

兼若逸之 うまくなる！韓国語ステップ50 明石書店

科目名 クラス 講義区分	
朝鮮語Ⅲ b <春>	
青野正明	1単位

【講義概要】

「朝鮮語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ基礎力をもとに、ⅢbとⅣbではさらに文法をしっかり学びながら、徐々に難しい文章の翻訳ができるように進めていく。この時期は、ある程度の基礎的な文法がわかっているため、高度な文法や文章表現の理解も容易であろう。

【学習目標】

1年間の学習を終えた段階で、辞書を引きながら新聞記事や簡単な論説文が翻訳できることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 授業計画・辞書・成績評価等の説明
- 第2回 11課
- 第3回 12課
- 第4回 復習
- 第5回 13課
- 第6回 14課
- 第7回 復習、練習問題（連用形）
- 第8回 練習問題（11～14課）
- 第9回 15課
- 第10回 16課
- 第11回 17課
- 第12回 復習
- 第13回 練習問題（11～17課）
- 第14回 試験

【成績評価の方法】

期末テスト（100点満点）の点数から2点×欠席回数、1点×遅刻回数を減点して最終的な成績を出す。

【教科書】

金東漢・張銀英 改訂版 韓国語レッスン 初級Ⅱ スリーエーネットワーク

科目名 クラス 講義区分	
朝鮮語Ⅳ a <秋>	
青 野 正 明	1 単位

【講義概要】

「朝鮮語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ基礎力をもとに、ⅢaとⅣaでは韓国における日常会話の文章表現を学びながら会話能力をさらに高めていく。一般的には、難しい表現を学んでも実践できないで終わる場合がほとんどである。そこで、実践の場で応用できるように基本会話をマスターすることに重点を置き、会話力の基礎的な骨組みを築く学習を進めていく。

【学習目標】

多くの人が話せるようになりたいと思いつつも、なかなか話せるまでに至らないのが実情である。そこで、この授業では基本会話をマスターすることにより会話力の基礎的な骨組みを築きあげることを目指す。この骨組みさえできていれば、それをもとに場面に合わせて応用することができるし、個人の努力次第でどんどんとレベルアップもできるのである。

【講義計画】

- 第1回 Ⅲaで学んだ範囲の復習
- 第2回 ステップ30・31
- 第3回 ステップ32・33
- 第4回 ステップ34・35
- 第5回 ステップ36・37
- 第6回 ステップ38・39
- 第7回 ステップ40・41
- 第8回 小テスト
- 第9回 ステップ42・43
- 第10回 ステップ44・45
- 第11回 ステップ46・47
- 第12回 ステップ48・49・50
- 第13回 小テスト
- 第14回 期末試験

【成績評価の方法】

期末テストと小テスト（2回の平均）は6：4の比率にして100点満点に換算する。その点数から2点×欠席回数、1点×遅刻回数を減点して最終的な成績を出す。

【教科書】

兼若逸之 うまくなる！韓国語ステップ50 明石書店

科目名 クラス 講義区分	
朝鮮語Ⅳ b <秋>	
青 野 正 明	1 単位

【講義概要】

「朝鮮語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ基礎力をもとに、ⅢbとⅣbではさらに文法をしっかりと学びながら、徐々に難しい文章の翻訳ができるように進めていく。この時期は、ある程度の基礎的な文法がわかっているため、高度な文法や文章表現の理解も容易であろう。

【学習目標】

1年間の学習を終えた段階で、辞書を引きながら新聞記事や簡単な論説文が翻訳できることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 18課
- 第2回 19課
- 第3回 復習
- 第4回 20課
- 第5回 21課
- 第6回 22課
- 第7回 復習
- 第8回 23課
- 第9回 24課
- 第10回 25課
- 第11回 復習
- 第12回 練習問題（18～25課）
- 第13回 練習問題（11～17課）
- 第14回 試験

【成績評価の方法】

期末テスト（100点満点）の点数から2点×欠席回数、1点×遅刻回数を減点して最終的な成績を出す。

【教科書】

金東漢・張銀英 改訂版 韓国語レッスン 初級Ⅱ スリーエーネットワーク

科目名	クラス	講義区分
地理学概論 01 <通期>		
安倉 良二	4単位	

【講義概要】

テーマ：「人文地理学の基本的な見方」

地理学で取り上げる内容はきわめて多岐にわたる。本講義では、地理学の中でも人文地理学に視点を置き、その基本的な見方についてトピック形式で紹介することを目的とする。前期は、地理学において基本的な分析ツールである地図の活用を中心に、人口、第1次産業および農山村を、後期は主に都市地域でみられる事象を取り上げる予定である。

【学習目標】

本講義では、高校で「地理」を学んでいない学生が多いことを考慮しつつ、各テーマについて具体的な事例を基に、図表類を豊富に盛り込んだレジュメを用いて解説する。通年で受講することによって、人文地理学で扱われている内容は身近なところで取り上げられていることがわかるようになるだろう。なお、本講義は日本国内の事例を中心に取り上げるために、テーマによっては「日本地誌」の性格も強くなる。海外の地理的なトピックについては、担当者が開講する「地誌」の並行受講を勧める。

【講義計画】

- 第1回 講義に関するガイダンスー「人文地理学」とは？ー
- 第2回 地理学における「地域」と「スケール」
- 第3回 地理学における地図の活用ー主題図の表現を中心にー
- 第4回 「メンタルマップ」からわかる空間認知
- 第5回 人口①ー世界の人口問題ー
- 第6回 人口②ー人口ピラミッドからみた日本の地域変容ー
- 第7回 人口③ー人口移動の諸相ー
- 第8回 人口④ー外国人の増加と地域ー
- 第9回 農業①ー日本における農業地域構造の変化ー
- 第10回 農業②ー輸入農畜産物の増加と国内外の産地変容ー
- 第11回 農業③ー都市農業：市民農園と観光農園ー
- 第12回 農山村地域の変容①ー過疎化の進展と「限界集落」ー
- 第13回 農山村地域の变容②ー「周辺地域論」からみた産業の立地再編成ー
- 第14回 農山村地域の变容③ー地域振興の方向性ー
- 第16回 地理学における都市の概念ー「平成の大合併」との関わりでー
- 第17回 都市の内部構造
- 第18回 都市景観①ー土地利用の変化からみた農村から都市への変容ー
- 第19回 都市景観②ー大都市における超高層ビルの立地からー
- 第20回 大都市圏ー『国勢調査』からわかる大都市と郊外のつながりー
- 第21回 時間地理学ー都市住民の生活行動を読むー
- 第22回 郊外地域における就業
- 第23回 都市居住①ー郊外住宅地の変容ー
- 第24回 都市居住②ー中心市街地におけるマンションの立地と人口の「都心回帰」ー
- 第25回 都市群システムー都市の階層性を読むー
- 第26回 情報化の進展とオフィスの立地再編成
- 第27回 商業①ー中心市街地（商店街）の盛衰とその再生ー
- 第28回 商業②：都市内部における食料品小売業の立地ー小売市場とコンビニー

【成績評価の方法】

試験 100%
前期・後期それぞれ行う定期試験で評価する。試験は論述式で行い、各テーマの基本的な内容がどれだけ理解できているのかについて、要因分析に踏み込んだ解答を求める。講義で用いた図表の読み取りを試験問題に含める場合もある。

【参考文献】

テキストは用いないが参考文献は適宜紹介したい。なお、現時点で人文地理学全般のトピックをコンパクトにまとめた書物としては以下のものがあげられるので興味のある人は一読を勧める。
1. 上野和彦・椿真智子・中村康子編(2007)：『地理学基礎シリーズ第1巻 地理学概論』朝倉書店
2. 伊藤喜栄・藤塚吉浩編(2008)：『図説 21世紀日本の地域問題』古今書院

科目名	クラス	講義区分
地理学概論 02 <秋集>		
野尻 亘	4単位	

【講義概要】

地理学は、具体的な現実の「地域」、地域間の諸関係を反映した理論的・抽象的な「空間構造」および、人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象とし、固有の理論や法則・思想を持っている。この授業では、これらの考え方を学ぶとともに、人文地理学や自然地理学の基礎について、一般的かつ包括的に幅広く、総合的に学習する。

【学習目標】

日本および世界の自然環境・景観・土地利用の特色について概説する。また人文地理学の方法論および経済立地理論・都市社会空間理論については、古典理論から、ポストモダンに至るまでの現代思想の動向をふまえた地理学の最新理論について学習を行う。

【講義計画】

- 第1回 第I部 地理学の思想
地理学とは何か
- 第2回 近代地理学の誕生 地域生態系の発見
- 第3回 地球環境問題
- 第4回 機能体としての地域の発見
- 第5回 空間構造、流動とネットワーク、重力モデル
- 第6回 時間と空間における個人の制約：時間地理学
- 第7回 人文主義地理学
- 第8回 構造主義・構造化理論と批判的地理学
- 第9回 リアリズム・ポストモダンの地理学
- 第10回 第II部 自然環境の地理
地球の起源と生命の歴史
- 第11回 プレートテクトニクスと弧状列島
- 第12回 地形の特色をさぐる
- 第13回 世界の気候と植生
- 第14回 日本の気候
- 第15回 日本列島の自然
- 第16回 第III部 産業活動の地理
経済地理学と立地論・中心地理論 チューネンからクルーグマンまで
- 第17回 世界の農業地域区分
- 第18回 世界の森林と林業
- 第19回 世界の漁場と水産業
- 第20回 近代工業の成立とその地域的条件
- 第21回 地場産業
- 第22回 世界の主要工業地域
- 第23回 流通と貿易の変化
- 第24回 第IV部 居住と移動の地理
人口移動と人口転換
- 第25回 アフリカの飢餓食糧問題
- 第26回 村落の社会地理
- 第27回 都市の社会空間
- 第28回 旅客交通とツーリズム
- 第29回 補論 地形図の基礎・地理と学校教育
地形図の読解
- 第30回 地理と学校教育

【成績評価の方法】

定期期間内試験（期末テスト）の得点のみで成績をつけます。教職に関連する科目なので、内容が幅広く、学習する事項が多くて負担が大きいため、注意して履修してください。

【教科書】

野尻亘・古田昇 世界市民の地理学 晃洋書房

【参考文献】

地理学に関する文献については、授業中に適時紹介する。中学・高校時に使用した「地図帳」が家に残っていれば、授業に参加していただければ幸いです。

科目名 クラス 講義区分	
手形法小切手法 < 通期 >	
牛丸 與志夫	4 単位

【講義概要】

講義は、まず、国内取引で頻繁に使われている約束手形について行い、続いて、為替手形および小切手についての特殊性を説明する。授業の方法は、簡単に規制の概要を説明し、次に練習問題を解きながら、応用力を養っていく。

【学習目標】

わが国において、手形・小切手が企業の支払い手段として重要な役割を果たしている。そこで、講義では手形および小切手の法規制の基本的な知識と応用力の取得を目標とする。

【講義計画】

- 第1回 手形・小切手の意義と機能・約束手形の振出・手形要件(金額)
- 第2回 手形要件(満期)
- 第3回 手形要件(支払地)・支払場所
- 第4回 手形の署名(個人)
- 第5回 手形の署名(法人・組合)
- 第6回 白地手形
- 第7回 代理人による手形振出
- 第8回 無権代理・偽造
- 第9回 手形の変造
- 第10回 手形の授受と原因関係
- 第11回 手形行為における意思表示の瑕疵・欠缺
- 第12回 手形保証
- 第13回 手形の書換
- 第14回 約束手形の移転・裏書の方式
- 第15回 善意取得
- 第16回 人的抗弁の切断
- 第17回 裏書の効力(権利移転効力)
- 第18回 裏書の効力(担保的効力)
- 第19回 裏書の効力(資格授与的効力)
- 第20回 特殊の裏書(期限後裏書)
- 第21回 特殊の裏書(公然たる取立委任裏書)
- 第22回 特殊の裏書(隠れたる取立委任裏書)
- 第23回 特殊の裏書(戻裏書)
- 第24回 融通手形の抗弁
- 第25回 悪意の抗弁
- 第26回 手形の支払呈示
- 第27回 支払の免責
- 第28回 手形の喪失・時効・利得償還請求権
- 第29回 為替手形の特徴・為替手形の引受
- 第30回 小切手の特徴・線引小切手

【成績評価の方法】

試験 100%
小テストおよび期末試験で評価する。

【教科書】

木村秀一 判例手形小切手法 中央経済社

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
データ解析実習 01 < 春集 >	
過 放	4 単位

【講義概要】

この科目は「社会調査A」「社会調査B」の単位取得者を対象に開講されるものである。少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法、特に統計解析諸技法の習得についてのものである。

【学習目標】

授業では、(1)過去の調査実習報告書や研究論文などの輪読・検討を通して、基本的な資料とデータの分析、量的データ解析の基礎的な手法について学ぶとともに、(2)「社会科学のための統計パッケージ」(SPSS)を活用しながら、既存データの再集計と分析をおこなうことで、統計解析諸技法を使いこなせるようになることを目指す。また、秋学期の「社会調査実習Ⅱ」に向けて、各自が社会調査の問題意識を持ち、学期末には調査計画書の提出を義務付ける。なお、調査実習は講義科目とも演習科目とも異なり、正規の授業時間以外にもきわめて多くの共同学習や作業の時間を必要とするので、学生諸君には、それなりの心がまえをもって履修してもらいたい。遅刻や無断欠席、不真面目な受講態度などは履修放棄とみなし、学期途中であっても除名する。

【講義計画】

- 第1回 実習の計画(必要な場合は実習生のグループ分け)
- 第2回 過去の調査報告書の検討 ①問題意識と仮説を学ぶ
- 第3回 過去の調査報告書の検討 ②問題意識と仮説を学ぶ
- 第4回 過去の調査報告書の検討 ①記述統計データの読み方・まとめ方(単純集計・度数分布)
- 第5回 過去の調査報告書の検討 ②記述統計データの読み方・まとめ方(代表値・平均値・分散)
- 第6回 過去の調査報告書の検討 ③記述統計データの読み方・まとめ方(クロス集計・比率の差)
- 第7回 過去の調査報告書の検討 ①相関関係と因果関係、疑似相関の概念(クラマー係数、ファイ係数)
- 第8回 過去の調査報告書の検討 ②相関関係と因果関係、疑似相関の概念(ピアソン係数、ケンドール係数)
- 第9回 過去の調査報告書の検討 ③相関関係と因果関係、疑似相関の概念
- 第10回 研究論文の検討 ①統計データの社会的分析法
- 第11回 研究論文の検討 ①多変量解析の基礎(重回帰分析)
- 第12回 研究論文の検討 ②多変量解析の基礎(因子分析、主成分分析)
- 第13回 研究論文の検討 ①さまざまな計量モデルを学ぶ(重回帰、ロジット回帰)
- 第14回 研究論文の検討 ②さまざまな計量モデルを学ぶ(数量化理論)
- 第15回 既存データの再集計 ①SPSSの基礎
- 第16回 既存データの再集計 ②SPSSの基礎
- 第17回 既存データの再集計 ①SPSSの応用
- 第18回 既存データの再集計 ②SPSSの応用
- 第19回 既存データの再集計 ①SPSSのプログラミング
- 第20回 既存データの再集計 ②SPSSのプログラミング
- 第21回 既存データの再集計 ③SPSSのプログラミング
- 第22回 データ分析と仮説検証 ①問題意識と仮説
- 第23回 データ分析と仮説検証 ①統計的検定
- 第24回 データ分析と仮説検証 ②統計的検定
- 第25回 データ分析と仮説検証 ①因果関係のエロポレーション
- 第26回 データ分析と仮説検証 ②因果関係のエロポレーション
- 第27回 データ分析と仮説検証 ①多変量解析の実際(重回帰分析)
- 第28回 データ分析と仮説検証 ②多変量解析の実際(因子分析、主成分分析)
- 第29回 データ分析と仮説検証 ①分析結果のまとめ・発表
- 第30回 データ分析と仮説検証 ②分析結果のまとめ・発表

【成績評価の方法】

実習活動への参加(毎回の出席は最低条件)と、小レポートなどの提出物、発表内容、学期提出の調査計画書(4000字程度)によって評価する。

【教科書】

大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ[第2版]』ミネルヴァ書房

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。
<07生>以上のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
データ解析実習 02 <春集>	
阪 口 祐 介	4 単位

【講義概要】

この科目は「社会調査A」「社会調査B」の単位取得者を対象に開講されるものである。少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法、特に統計解析諸技法の習得についてのものである。

【学習目標】

授業では、(1)過去の調査実習報告書や研究論文などの輪読・検討を通して、基本的な資料とデータの分析、量的データ解析の基礎的な手法について学ぶとともに、(2)「社会科学のための統計パッケージ」(SPSS)を活用しながら、既存データの再集計と分析をおこなうことで、統計解析諸技法を使いこなせるようになることを目指す。また、秋学期の「社会調査実習Ⅱ」に向けて、各自が社会調査の問題意識を持ち、学期末には調査計画書の提出を義務付ける。

なお、調査実習は講義科目とも演習科目とも異なり、正規の授業時間以外にもきわめて多くの共同学習や作業の時間を必要とするので、学生諸君には、それなりの心がまえをもって履修してもらいたい。遅刻や無断欠席、不真面目な受講態度などは履修放棄とみなし、学期途中であっても除名する。

【講義計画】

- 第1回 実習の計画 (必要な場合は実習生のグループ分け)
- 第2回 過去の調査報告書の検討 ①問題意識と仮説を学ぶ
- 第3回 過去の調査報告書の検討 ②問題意識と仮説を学ぶ
- 第4回 過去の調査報告書の検討 ①記述統計データの読み方・まとめ方 (単純集計・度数分布)
- 第5回 過去の調査報告書の検討 ②記述統計データの読み方・まとめ方 (代表値・平均値・分散)
- 第6回 過去の調査報告書の検討 ③記述統計データの読み方・まとめ方 (クロス集計・比率の差)
- 第7回 過去の調査報告書の検討 ①相関関係と因果関係、疑似相関の概念 (クラマー係数、ファイ係数)
- 第8回 過去の調査報告書の検討 ②相関関係と因果関係、疑似相関の概念 (ピアソン係数、ケンドール係数)
- 第9回 過去の調査報告書の検討 ③相関関係と因果関係、疑似相関の概念
- 第10回 研究論文の検討 ①統計データの社会的分析法
- 第11回 研究論文の検討 ①多変量解析の基礎 (重回帰分析)
- 第12回 研究論文の検討 ②多変量解析の基礎 (因子分析、主成分分析)
- 第13回 研究論文の検討 ①さまざまな計量モデルを学ぶ (重回帰、ロジット回帰)
- 第14回 研究論文の検討 ②さまざまな計量モデルを学ぶ (数量化理論)
- 第15回 既存データの再集計 ①SPSSの基礎
- 第16回 既存データの再集計 ②SPSSの基礎
- 第17回 既存データの再集計 ①SPSSの応用
- 第18回 既存データの再集計 ②SPSSの応用
- 第19回 既存データの再集計 ①SPSSのプログラミング
- 第20回 既存データの再集計 ②SPSSのプログラミング
- 第21回 既存データの再集計 ③SPSSのプログラミング
- 第22回 データ分析と仮説検証 ①問題意識と仮説
- 第23回 データ分析と仮説検証 ①統計的検定
- 第24回 データ分析と仮説検証 ②統計的検定
- 第25回 データ分析と仮説検証 ①因果関係のエラボレーション
- 第26回 データ分析と仮説検証 ②因果関係のエラボレーション
- 第27回 データ分析と仮説検証 ①多変量解析の実際 (重回帰分析)
- 第28回 データ分析と仮説検証 ②多変量解析の実際 (因子分析、主成分分析)
- 第29回 データ分析と仮説検証 ①分析結果のまとめ・発表
- 第30回 データ分析と仮説検証 ②分析結果のまとめ・発表

【成績評価の方法】

実習活動への参加 (毎回の出席は最低条件) と、小レポートなどの提出物、発表内容、学期提出の調査計画書 (4000字程度) によって評価する。

【教科書】

大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ[第2版]』ミネルヴァ書房

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。
<07生>以上のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
データ解析実習 03 <秋集>	
岩 田 考	4 単位

【講義概要】

この科目は「社会調査A」「社会調査B」の単位取得者を対象に開講されるものである。少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法、特に統計解析諸技法の習得をめざす。

【学習目標】

授業では、(1)過去の調査実習報告書や研究論文などの輪読・検討を通して、基本的な資料とデータの分析、量的データ解析の基礎的な手法について学ぶとともに、(2)「社会科学のための統計パッケージ」(SPSS)を活用しながら、既存データの再集計と分析をおこなうことで、統計解析諸技法を使いこなせるようになることを目指す。また、3年次の「社会調査実習」に向けて、各自が社会調査の問題意識を持ち、学期末には調査計画書の提出を義務付ける。

【講義計画】

- 第1回 実習の計画 (必要な場合は実習生のグループ分け)
- 第2回 過去の調査報告書の検討 (1)問題意識と仮説を学ぶ
- 第3回 過去の調査報告書の検討 (2)問題意識と仮説を学ぶ
- 第4回 過去の調査報告書の検討 (1)記述統計データの読み方・まとめ方 (単純集計・度数分布)
- 第5回 過去の調査報告書の検討 (2)記述統計データの読み方・まとめ方 (代表値・平均値・分散)
- 第6回 過去の調査報告書の検討 (3)記述統計データの読み方・まとめ方 (クロス集計・比率の差)
- 第7回 過去の調査報告書の検討 (1)相関関係と因果関係、疑似相関の概念 (クラマー係数、ファイ係数)
- 第8回 過去の調査報告書の検討 (2)相関関係と因果関係、疑似相関の概念 (ピアソン係数、ケンドール係数)
- 第9回 過去の調査報告書の検討 (3)相関関係と因果関係、疑似相関の概念
- 第10回 研究論文の検討 (1)統計データの社会的分析法
- 第11回 研究論文の検討 (1)多変量解析の基礎 (重回帰分析)
- 第12回 研究論文の検討 (2)多変量解析の基礎 (因子分析、主成分分析)
- 第13回 研究論文の検討 (1)さまざまな計量モデルを学ぶ (重回帰、ロジット回帰)
- 第14回 研究論文の検討 (2)さまざまな計量モデルを学ぶ (数量化理論)
- 第15回 既存データの再集計 (1)SPSSの基礎
- 第16回 既存データの再集計 (2)SPSSの基礎
- 第17回 既存データの再集計 (1)SPSSの応用
- 第18回 既存データの再集計 (2)SPSSの応用
- 第19回 既存データの再集計 (1)SPSSのプログラミング
- 第20回 既存データの再集計 (2)SPSSのプログラミング
- 第21回 既存データの再集計 (3)SPSSのプログラミング
- 第22回 データ分析と仮説検証 (1)問題意識と仮説
- 第23回 データ分析と仮説検証 (1)統計的検定
- 第24回 データ分析と仮説検証 (2)統計的検定
- 第25回 データ分析と仮説検証 (1)因果関係のエラボレーション
- 第26回 データ分析と仮説検証 (2)因果関係のエラボレーション
- 第27回 データ分析と仮説検証 (1)多変量解析の実際 (重回帰分析)
- 第28回 データ分析と仮説検証 (2)多変量解析の実際 (因子分析、主成分分析)
- 第29回 データ分析と仮説検証 (1)分析結果のまとめ・発表
- 第30回 データ分析と仮説検証 (2)分析結果のまとめ・発表

【成績評価の方法】

授業への参加 (毎回の出席は当然である。ただ居るだけでは出席とみなさない。主体的かつ積極的な参加を要求する) と、小レポートなどの提出物、発表内容、学期末提出の調査計画書 (4000字程度) によって評価する。

【教科書】

大谷信介ほか編著 社会調査へのアプローチ [第2版] ミネルヴァ書房
社会調査A、Bと共通

【参考文献】

ボンシュレット&ノーキ 1990『社会統計学—学生版—』ハーベスト社

森岡清志編著 2007『ガイドブック社会調査』[第2版] 日本評論社
 辻大介2008『世代や世相の文化への視座—量的アプローチと質的アプローチ—南田勝也・辻泉編著『文化社会学の視座』ミネルヴァ書房
 ハンス・ザイゼン 2005『数字で語る—社会統計学入門—』新曜社
 ※その他、講義中に適宜紹介します。

【備考】

なお、調査実習は講義科目とも演習科目とも異なり、正規の授業時間以外にもきわめて多くの共同学習や作業の時間を必要とするので、学生諸君には、それなりの心がまえをもって履修してもらいたい。遅刻や無断欠席、不真面目な受講態度などは履修放棄とみなし、学期途中であっても除名する。

<02~07生>は読替一覧参照の事。

<08生>以上のみ履修可

科目名	クラス	講義区分
データ解析実習 04 <秋集>		
大 倉 季 久		4 単位

【講義概要】

この科目は「社会調査A」「社会調査B」の単位取得者を対象に開講されるものである。少人数の演習形式によって、社会調査に関する深い知識と技法、特に統計解析諸技法の習得についてのものである。

【学習目標】

授業では、(1)過去の調査実習報告書や研究論文などの輪読・検討を通して、基本的な資料とデータの分析、量的データ解析の基礎的な手法について学ぶとともに、(2)「社会科学のための統計パッケージ」(SPSS)を活用しながら、既存データの再集計と分析をおこなうことで、統計解析諸技法を使いこなせるようになることを目指す。また、3年次の「社会調査実習」に向けて、各自が社会調査の問題意識を持ち、学期末には調査計画書の提出を義務付ける。

なお、調査実習は講義科目とも演習科目とも異なり、正規の授業時間以外にもきわめて多くの共同学習や作業の時間を必要とするので、学生諸君には、それなりの心がまえをもって履修してもらいたい。遅刻や無断欠席、不真面目な受講態度などは履修放棄とみなし、学期途中であっても除名する。

【講義計画】

- 第1回 実習の計画 (必要な場合は実習生のグループ分け)
- 第2回 過去の調査報告書の検討 ①問題意識と仮説を学ぶ
- 第3回 過去の調査報告書の検討 ②問題意識と仮説を学ぶ
- 第4回 過去の調査報告書の検討 ①記述統計データの読み方・まとめ方 (単純集計・度数分布)
- 第5回 過去の調査報告書の検討 ②記述統計データの読み方・まとめ方 (代表値・平均値・分散)
- 第6回 過去の調査報告書の検討 ③記述統計データの読み方・まとめ方 (クロス集計・比率の差)
- 第7回 過去の調査報告書の検討 ①相関関係と因果関係、疑似相関の概念 (クラマー係数、ファイ係数)
- 第8回 過去の調査報告書の検討 ②相関関係と因果関係、疑似相関の概念 (ピアソン係数、ケンドール係数)
- 第9回 過去の調査報告書の検討 ③相関関係と因果関係、疑似相関の概念
- 第10回 研究論文の検討 ①統計データの社会的分析法
- 第11回 研究論文の検討 ①多変量解析の基礎 (重回帰分析)
- 第12回 研究論文の検討 ②多変量解析の基礎 (因子分析、主成分分析)
- 第13回 研究論文の検討 ①さまざまな計量モデルを学ぶ (重回帰、ロジット回帰)
- 第14回 研究論文の検討 ②さまざまな計量モデルを学ぶ (数量化理論)
- 第15回 既存データの再集計 ①SPSSの基礎
- 第16回 既存データの再集計 ②SPSSの基礎
- 第17回 既存データの再集計 ①SPSSの応用
- 第18回 既存データの再集計 ②SPSSの応用
- 第19回 既存データの再集計 ①SPSSのプログラミング
- 第20回 既存データの再集計 ②SPSSのプログラミング
- 第21回 既存データの再集計 ③SPSSのプログラミング
- 第22回 データ分析と仮説検証 ①問題意識と仮説
- 第23回 データ分析と仮説検証 ①統計的検定
- 第24回 データ分析と仮説検証 ②統計的検定
- 第25回 データ分析と仮説検証 ①因果関係のエラポレーション
- 第26回 データ分析と仮説検証 ②因果関係のエラポレーション
- 第27回 データ分析と仮説検証 ①多変量解析の実際 (重回帰分析)
- 第28回 データ分析と仮説検証 ②多変量解析の実際 (因子分析、主成分分析)
- 第29回 データ分析と仮説検証 ①分析結果のまとめ・発表
- 第30回 データ分析と仮説検証 ②分析結果のまとめ・発表

【成績評価の方法】

出席、および受講態度、課題の提出状況によって総合的に評価する。詳細は、第1回の授業時に説明する。

【教科書】

大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ[第2版]』ミネルヴァ書房

【参考文献】

適宜指示する。

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。

<08生>以上のみ履修可

た
行

科目名 クラス 講義区分	
データベース実習 <春>	
初瀬 慎一	2単位

【講義概要】

実習を通じ、研究やオフィスにおいてのデータ整理必須ツールであるデータベースの初歩を学習する。

【学習目標】

本講座では、Microsoft Accessを用いてデータベースを作成し、リレーショナルデータベース全般の基礎的概念、構築・運用の実践について学ぶ。次いでサーバーに構築されたRDBMS環境を利用して、SQLを用いてのデータ検索を行う。

さらにWEBサーバーと連携した、簡易データベース機能の基礎を知る。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
データベースとは
Microsoft Accessの基本操作
- 第2回 テーブルの作成
- 第3回 正規化
- 第4回 データの入力 表計算ソフトよりのインポート
- 第5回 データの入力 外部データベースとの連携
- 第6回 データの検索 クエリとSQL
- 第7回 データの検索 クエリとSQL
- 第8回 テーブルの連携 リレーションシップと整合性
- 第9回 テーブルの連携 リレーションシップと整合性
- 第10回 画面設計
- 第11回 報告書設計
- 第12回 総合演習 システム設計
- 第13回 総合演習 製作
- 第14回 総合演習
- 第15回 まとめ フリーのデータベースソフトとWebデータベース

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

提出課題の評価を中心に、試験との総合評価を行う。出席は授業日数の3分の2以上であること。

【教科書】

資料は適宜配布する

科目名 クラス 講義区分	
哲学 <通期>	
木下 昌巳	4単位

【講義概要】

哲学とは、世界と人間について、常識を突き抜け、その究極的なあり方を根源的・包括的に認識しようとする学問である。本講義では、古代ギリシアから現代に至るまでの西洋の主要な哲学者たちを取り上げ、彼らの思想を学び、哲学という学問が取り組もうとする問題と彼らの考え方の道筋を理解することを目指す。哲学という学問は、日常生活の常識を疑うものであり、本質的に難解である。学ぶ側に哲学の問題に対する積極的な関心がなければ、その理解は困難であり、その意義を見出すことはできないであろう。世界と人間について深く考え、その本質を知ることに関心のある人の受講を希望する。

なお、この講義では、哲学的問題のなかでも、存在論（世界は究極的にいかなる存在から成り立っているのか？）と認識論（人間は何をどこまで知ることができるのか？）を中心に取り上げる。「ひとはいかに生きるべきか？」という問題を取り扱った哲学思想に関心のある人は、哲学とは別に開講されている倫理学の受講を勧めらる。

【学習目標】

春学期は、「哲学」という学問が成立した古代ギリシア期の哲学者たちを年代順に取り上げ、「哲学」という学問がどのように成立し、発展していったのかを概観することによって、哲学という学問の根本的な問題意識を理解することを目指す。秋学期は、ヨーロッパの近世以降の哲学をテーマとして、16世紀から20世紀に至るまでの主要な哲学者の中心思想を解説する。

【講義計画】

- 第1回 哲学とは何か。および哲学の時代区分
- 第2回 ソクラテス以前の哲学者たち——ミレトス学派
- 第3回 ソクラテス以前の哲学者たち——エレア派①
- 第4回 ソクラテス以前の哲学者たち——エレア派②
- 第5回 ソクラテス
- 第6回 プラトン①
- 第7回 プラトン②
- 第8回 プラトン③
- 第9回 アリストテレス①
- 第10回 アリストテレス②
- 第11回 古代の原子論①
- 第12回 古代の原子論②
- 第13回 ストア派の思想①
- 第14回 ストア派の思想②
- 第15回 中世哲学の概観
- 第16回 ルネサンス期の哲学
- 第17回 ベーコン
- 第18回 デカルト①
- 第19回 デカルト②
- 第20回 スピノザとライプニッツ
- 第21回 ロック
- 第22回 バークリー
- 第23回 ヒューム
- 第24回 カント①
- 第25回 カント②
- 第26回 カント③
- 第27回 ヘーゲル①
- 第28回 ヘーゲル②
- 第29回 20世紀の哲学①
- 第30回 20世紀の哲学②

【成績評価の方法】

試験 90% 出席 10%

テストは、前期と後期にそれぞれ1回ずつ、計2回する。出席は毎回取らないが、不定期に授業の内容に関する小作文を授業中に書いてもらい、それを出席点として成績に加味する。

【教科書】

必要なプリントを授業中に配布する。必要な書籍は授業中に指示する。

【参考文献】

授業中に指示する。

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語 I a 01 <春>	
田 中 秀 穂	1 単位

【講義概要】

初めてドイツ語を学ぶ学生を対象として、初級文法の講義と演習を行なう。アルファベットや発音から始めて、基本的な文法事項を習得していく。

【学習目標】

ドイツ語には、主語によって動詞の形が変わる「人称変化」や、名詞や冠詞などが文中での役割によって変化する「格変化」、独特の語の並べ方など、さまざまな特徴がある。このようなドイツ語の表現と理解の基礎を、練習問題に取り組みながら身につける。

【講義計画】

- 第1回 つづり字の読み方と発音 1
- 第2回 つづり字の読み方と発音 2
- 第3回 動詞の人称変化、文の作り方 1
- 第4回 動詞の人称変化、文の作り方 2
- 第5回 文法上の性と格 1
- 第6回 文法上の性と格 2
- 第7回 冠詞類
- 第8回 不規則変化動詞、命令形 1
- 第9回 不規則変化動詞、命令形 2
- 第10回 前置詞の格支配 1
- 第11回 前置詞の格支配 2
- 第12回 複数形
- 第13回 形容詞の格変化、人称代名詞 1
- 第14回 形容詞の格変化、人称代名詞 2
- 第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行なう。また平常点（授業への積極的な参加）も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。小テストもしくは中間テストをすることもある。

【教科書】

在間 進 新生ドイツ語文法 V5 朝日出版社

【参考文献】

独和辞典は、初回にいくつか紹介するので、随意に選んで1冊購入すること。

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語 I a 02 <春>	
田 中 秀 穂	1 単位

【講義概要】

初めてドイツ語を学ぶ学生を対象として、初級文法の講義と演習を行なう。アルファベットや発音から始めて、基本的な文法事項を習得していく。

【学習目標】

ドイツ語には、主語によって動詞の形が変わる「人称変化」や、名詞や冠詞などが文中での役割によって変化する「格変化」、独特の語の並べ方など、さまざまな特徴がある。このようなドイツ語の表現と理解の基礎を、練習問題に取り組みながら身につける。

【講義計画】

- 第1回 つづり字の読み方と発音 1
- 第2回 つづり字の読み方と発音 2
- 第3回 動詞の人称変化、文の作り方 1
- 第4回 動詞の人称変化、文の作り方 2
- 第5回 文法上の性と格 1
- 第6回 文法上の性と格 2
- 第7回 冠詞類
- 第8回 不規則変化動詞、命令形 1
- 第9回 不規則変化動詞、命令形 2
- 第10回 前置詞の格支配 1
- 第11回 前置詞の格支配 2
- 第12回 複数形
- 第13回 形容詞の格変化、人称代名詞 1
- 第14回 形容詞の格変化、人称代名詞 2
- 第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行なう。また平常点（授業への積極的な参加）も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。小テストもしくは中間テストをすることもある。

【教科書】

在間 進 新生ドイツ語文法 V5 朝日出版社

【参考文献】

独和辞典は、初回にいくつか紹介するので、随意に選んで1冊購入すること。

た
行

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語 I b 01 <春>	
村田 佳隆	1単位

【講義概要】

初めてドイツ語を学ぶ学生を対象にした、初歩的な演習授業。

【学習目標】

ドイツ語学習の土台をつくることがこの授業の目標である。発音の練習をまずタップリとこなし、最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。とにかく出席して、授業中に頑張ること。

【講義計画】

- 第1回 文字と発音
- 第2回 発音その1
- 第3回 発音その2
- 第4回 発音その3
- 第5回 動詞の現在人称変化 その1
- 第6回 動詞の現在人称変化 その2
- 第7回 名詞の性と冠詞 その1
- 第8回 名詞の性と冠詞 その2
- 第9回 名詞の格 その1
- 第10回 名詞の格 その2
- 第11回 名詞の格 その3
- 第12回 動詞の現在人称変化 その3
- 第13回 前置詞
- 第14回 試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。

【教科書】

大谷弘道 大谷ウルズラ 新・問いかけるドイツ語 改訂版 三修社

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語 I b 02 <春>	
高田 里恵子	1単位

【講義概要】

このクラスでは、I aの授業で習う文法を応用して、簡単なドイツ語会話を楽しみ、またやさしい文章を読んでいきます。

【学習目標】

目標は、ただ一つ！ 大きな声でドイツ語を話すことができるような度胸を身につけることです。そのために、しっかり文法を学び、本を読み、心の中に自信を育てましょう。

この「度胸」は、日本語で行なうプレゼンテーションにも、英会話にも応用できるはずです。

【講義計画】

- 第1回 ドイツ語とはどんな言葉だろうか
- 第2回 ドイツ語を大きな声で怒鳴ってみる（発音練習です）①
- 第3回 ドイツ語を大きな声で怒鳴ってみる②
- 第4回 ドイツ語を大きな声で怒鳴ってみる③
- 第5回 自己紹介をしてみる①
- 第6回 自己紹介をしてみる②
- 第7回 自己紹介をしてみる③
- 第8回 相手にいろいろ質問する
- 第9回 買い物に行く①
- 第10回 買い物に行く②
- 第11回 ハロー・ミュンヘン①
- 第12回 ハロー・ミュンヘン②
- 第13回 ハロー・ミュンヘン③
- 第14回 文法事項の復習
- 第15回 テスト

【成績評価の方法】

最後の授業の時に試験を行いません。成績（合否）はaの担当の教員と相談のうえ決定されます。平常点も重視しますが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味しています。授業中の態度や勉強意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりです

【教科書】

教科書は使いません。コピーを配布します。

【参考文献】

授業中に指示します。

科目名 クラス 講義区分

ドイツ語Ⅱ a 01 <秋>

田 中 秀 穂

1 単位

【講義概要】

春学期に続き、初級文法の講義と演習を行なう。

【学習目標】

春学期と合わせて受講することで、ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得する。

【講義計画】

- 第1回 話法の助動詞、未来形1
- 第2回 話法の助動詞、未来形2
- 第3回 分離動詞、再帰代名詞、再帰動詞1
- 第4回 分離動詞、再帰代名詞、再帰動詞2
- 第5回 zu不定詞1
- 第6回 zu不定詞2
- 第7回 三基本形、過去人称変化、接続詞1
- 第8回 三基本形、過去人称変化、接続詞2
- 第9回 現在完了形、過去完了形1
- 第10回 現在完了形、過去完了形2
- 第11回 受動形
- 第12回 比較表現
- 第13回 関係文
- 第14回 接続法
- 第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行なう。また平常点（授業への積極的な参加）も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。小テストもしくは中間テストをすることもある。

【教科書】

在間 進 新生ドイツ語文法 V5 朝日出版社

科目名 クラス 講義区分

ドイツ語Ⅱ a 02 <秋>

田 中 秀 穂

1 単位

【講義概要】

春学期に続き、初級文法の講義と演習を行なう。

【学習目標】

春学期と合わせて受講することで、ドイツ語の基本的な文法事項を一通り習得する。

【講義計画】

- 第1回 話法の助動詞、未来形1
- 第2回 話法の助動詞、未来形2
- 第3回 分離動詞、再帰代名詞、再帰動詞1
- 第4回 分離動詞、再帰代名詞、再帰動詞2
- 第5回 zu不定詞1
- 第6回 zu不定詞2
- 第7回 三基本形、過去人称変化、接続詞1
- 第8回 三基本形、過去人称変化、接続詞2
- 第9回 現在完了形、過去完了形1
- 第10回 現在完了形、過去完了形2
- 第11回 受動形
- 第12回 比較表現
- 第13回 関係文
- 第14回 接続法
- 第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行なう。また平常点（授業への積極的な参加）も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。小テストもしくは中間テストをすることもある。

【教科書】

在間 進 新生ドイツ語文法 V5 朝日出版社

た
行

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語Ⅱ b 01 <秋>	
村田 佳隆	1単位

【講義概要】

初めてドイツ語を学ぶ学生を対象にした、初歩的な演習授業。続き。

【学習目標】

ドイツ語学習の土台をつくるのがこの授業の目標である。発音の練習をまずタップリとこなし、最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。とにかく出席して、授業中に頑張ること。

【講義計画】

- 第1回 前期の復習
- 第2回 冠詞のグループ その1
- 第3回 冠詞のグループ その2
- 第4回 冠詞のグループ その3
- 第5回 形容詞
- 第6回 助動詞 その1
- 第7回 助動詞 その2
- 第8回 分離動詞
- 第9回 副文
- 第10回 3基本形
- 第11回 過去形
- 第12回 現在完了 その1
- 第13回 現在完了 その2
- 第14回 試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。

【教科書】

大谷弘道 大谷ウルズラ 新・問いかけるドイツ語 改訂版 三修社

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語Ⅱ b 02 <秋>	
高田 里恵子	1単位

【講義概要】

ドイツ語Ⅰbの続きです。
このクラスでは、Ⅰaの授業で習う文法を応用して、簡単なドイツ語会話を楽しみ、またやさしい文章を読んでいます。

【学習目標】

目標は、ただ一つ！ 大きな声でドイツ語を話すことができるような度胸を身につけることです。そのために、しっかり文法を学び、本を読み、心の中に自信を育てましょう。
この「度胸」は、日本語で行なうプレゼンテーションにも、英会話にも応用できるはずです。

【講義計画】

- 第1回 ささまざまな場面でどのような会話がなされるか、テキストにそって学んでいきます。
何語を学んでいますか①
- 第2回 何語を学んでいますか②
- 第3回 ドイツの食卓①
- 第4回 ドイツの食卓②
- 第5回 ドイツの生活風景を見ていきます。道を尋ねる①
- 第6回 道を尋ねる②
- 第7回 公共施設にて①
- 第8回 公共施設にて②
- 第9回 公共施設にて③
- 第10回 ホテルを予約する①
- 第11回 ホテルを予約する②
- 第12回 休暇の過ごし方①
- 第13回 休暇の過ごし方②
- 第14回 手紙を書く①
- 第15回 テスト

【成績評価の方法】

最後の授業の時に試験を行いません。成績（合否）はaの担当の教員と相談のうえ決定されます。平常点も重視しますが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味しています。授業中の態度や勉強意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりです

【教科書】

教科書は使いません。コピーを配布します。

【参考文献】

授業中に指示します。

科目名 クラス 講義区分
ドイツ語Ⅲ a <春>
高 田 里 恵 子 1 単 位

【講義概要】

初級で習ったドイツ語文法を復習しながら、ドイツ語会話を身につけていきます。ごく簡単な動詞や単語を使いながら、自分の気持ちをどう表現できるかを学んでいきます。

教科書は使用しません。プリントを配布するので、なくさないようにしましょう。授業には独和辞書と初級のクラスで使用した文法教科書をもってくること。

【学習目標】

この授業の第一の目標は、人の前で堂々とドイツ語を話す度胸をつけることです。そのためには、文法をしっかりマスターしているという自信をつけ、使える単語を増やしていかなければなりません。

この「度胸」は、ドイツ語会話だけではなく、日本語でのプレゼンテーションや英会話にも応用できるでしょう。

【講義計画】

- 第1回 初級文法の復習 1
主語をどう立てるか
- 第2回 初級文法の復習 2 主語をどう立てるか
- 第3回 初級文法の復習 3 動詞の選び方
- 第4回 初級文法の復習 4 代名詞と動詞
- 第5回 初級文法の復習 5 再帰代名詞の使い方
- 第6回 初級文法の復習 6 再帰動詞とは何か
- 第7回 初級文法の復習 7 自動詞の受動態
- 第8回 seind動詞の使い方 1
- 第9回 seind動詞の使い方 2
- 第10回 seind動詞の使い方 3
- 第11回 seind動詞の使い方 4
- 第12回 大きな数字の表わし方 1
- 第13回 大きな数字の表わし方 2
- 第14回 いろいろな数の表現
- 第15回 テスト

【成績評価の方法】

最後の授業の時に試験を行いません。成績（可否）はbの担当の教員と相談のうえ決定されます。また平常点も重視しますが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味しています。授業中の態度や勉強意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりです。

【教科書】

教科書は使いません。コピーを配布します。

【参考文献】

授業中に指示します。

科目名 クラス 講義区分
ドイツ語Ⅲ b <春>
田 中 秀 穂 1 単 位

【講義概要】

グリム童話を読む。テキストは、現代のドイツ語でやさしく書き直されている。各課において、文法や内容理解の問題、CDの聞き取りによる穴埋め問題などにも取り組む。

【学習目標】

親しみやすい内容のドイツ語テキストを読み、聞き、また練習問題を解くことにより、初級ドイツ語で学習した知識を確認・発展させ、さらにドイツ語の能力を高めることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 プレーメンの音楽隊 1
- 第2回 プレーメンの音楽隊 2
- 第3回 プレーメンの音楽隊 3
- 第4回 プレーメンの音楽隊 4
- 第5回 プレーメンの音楽隊 5
- 第6回 復習
- 第7回 中間試験
- 第8回 盗賊の花婿 1
- 第9回 盗賊の花婿 2
- 第10回 盗賊の花婿 3
- 第11回 盗賊の花婿 4
- 第12回 盗賊の花婿 5
- 第13回 盗賊の花婿 6
- 第14回 復習
- 第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行なう。また平常点（授業への積極的な参加）も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。小テストもしくは中間試験をすることもある。

【教科書】

Stefan Wundt、本橋右京 グリム童話で学ぶドイツ語 Part II 郁文堂

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語Ⅳ a <秋>	
高 田 里 恵 子	1 単 位

【講義概要】

初級で習ったドイツ語文法を復習しながら、ドイツ語会話を身につけていきます。ごく簡単な動詞や単語を使いながら、自分の気持ちをどう表現できるかを学んでいきます。

教科書は使用しません。プリントを配布するので、なくさないようしましょう。授業には独和辞書と初級のクラスで使用した文法教科書をもってくること。

【学習目標】

この授業の第一の目標は、人の前で堂々とドイツ語を話す度胸をつけることです。そのためには、文法をしっかりマスターしているという自信をつけ、使える単語を増やしていかなければなりません。

この「度胸」は、ドイツ語会話だけではなく、日本語でのプレゼンテーションや英会話にも応用できるでしょう。

【講義計画】

- 第1回 ドイツ語Ⅲ a の続きです。
年齢の表わし方
- 第2回 年号の表わし方
- 第3回 werdenの使い方 1
- 第4回 werdenの使い方 2
- 第5回 werdenの使い方 3
- 第6回 時刻の表わし方 1
- 第7回 時刻の表わし方 2
- 第8回 助動詞の文法事項復習
- 第9回 助動詞を使って自分の立場を表現する 1
- 第10回 助動詞を使って自分の立場を表現する 2
- 第11回 接続法の文法事項復習
- 第12回 接続法を使って表現の幅を広げる 1
- 第13回 接続法を使って表現の幅を広げる 2
- 第14回 序数の使い方
- 第15回 テスト

【成績評価の方法】

最後の授業の時に試験を行いません。成績（可否）はbの担当の教員と相談のうえ決定されます。また平常点も重視しますが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味しています。授業中の態度や勉強意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりです。

【教科書】

教科書は使いません。コピーを配布します。

【参考文献】

授業中に指示します。

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ語Ⅳ b <秋>	
田 中 秀 穂	1 単 位

【講義概要】

グリム童話を読む。テキストは、現代のドイツ語でやさしく書き直されている。各課において、文法や内容理解の問題、CDの聞き取りによる穴埋め問題などにも取り組む。

【学習目標】

親しみやすい内容のドイツ語テキストを読み、聞き、また練習問題を解くことにより、初級ドイツ語で学習した知識を確認・発展させ、さらにドイツ語の能力を高めることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 ハンスはりねずみ 1
- 第2回 ハンスはりねずみ 2
- 第3回 ハンスはりねずみ 3
- 第4回 ハンスはりねずみ 4
- 第5回 ハンスはりねずみ 5
- 第6回 ハンスはりねずみ 6
- 第7回 ハンスはりねずみ 7
- 第8回 ハンスはりねずみ 8
- 第9回 中間試験
- 第10回 つぐみ髭の王様 1
- 第11回 つぐみ髭の王様 2
- 第12回 つぐみ髭の王様 3
- 第13回 つぐみ髭の王様 4
- 第14回 つぐみ髭の王様 5
- 第15回 学期末試験

【成績評価の方法】

学期の終わりに試験を行なう。また平常点（授業への積極的な参加）も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。小テストもしくは中間試験をすることもある。

【教科書】

Stefan Wundt、本橋右京 グリム童話で学ぶドイツ語 Part II 郁文堂

科目名 クラス 講義区分	
ドイツ文化論 <秋集>	
高 田 里恵子	4単位

【講義概要】

この講義で見ていきたいことは、ファシズム（全体主義）がどのようなメカニズムで発生するか、ということである。それを、1900年前後のドイツ学校小説を中心にすえながら考察していく。時代的には、1871年のドイツ帝国の成立から、1945年の第三帝国の崩壊までに渡る。

【学習目標】

過去の歴史を知ることによって、現在のわたしたちの状況を批判的に見る視点を獲得することを目指す。また、小試験やレポートを書くことによって、明瞭な文章で意見を表明するやり方を身につけていく。

【講義計画】

- 第1回 この講義のテーマ、全体の計画、試験のやり方、平常点のつけ方などを説明する。
- 第2回 ブルジョア社会と学校制度①
- 第3回 ブルジョア社会と学校制度②
- 第4回 ブルジョアの男性性について①
- 第5回 ブルジョアの男性性について②
- 第6回 ドイツ最初の学校物語をめぐって①
- 第7回 ドイツ最初の学校物語をめぐって②
- 第8回 ドイツ幼年学校の世界①
- 第9回 ドイツ幼年学校の世界②
- 第10回 ドイツ幼年学校の世界③
- 第11回 1900年前後の学校改革①
- 第12回 1900年前後の学校改革②
- 第13回 ナチスの寄宿舎学校①
- 第14回 ナチスの寄宿舎学校②
- 第15回 パブリック・スクールについて①
- 第16回 パブリック・スクールについて②
- 第17回 ドイツ学校小説の主人公の特徴①
- 第18回 ドイツ学校小説の主人公の特徴②
- 第19回 ドイツ学校小説の主人公の特徴③
- 第20回 生徒共同体とファシズム①
- 第21回 生徒共同体とファシズム②
- 第22回 生徒共同体とファシズム③
- 第23回 帝国陸軍について①
- 第24回 帝国陸軍について②
- 第25回 ドイツの徴兵制①
- 第26回 ドイツの徴兵制②
- 第27回 『ドイツ戦没学生の手紙』について①
- 第28回 『ドイツ戦没学生の手紙』について②
- 第29回 全体のまとめ
- 第30回 試験（もしくは、全体のまとめ）

【成績評価の方法】

最後に試験を行なう。試験では、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。受講人数が少ない場合は、最後の講義時間のおりにテストをする予定である。

【教科書】

教科書は使わない。講義の内容をうまくノートにまとめることが重要である。

【参考文献】

野田宣雄『ドイツ教養市民層の歴史』（講談社学術文庫）

科目名 クラス 講義区分	
統計学総論 <秋集>	
井 田 憲 計	4単位

【講義概要】

まず記述統計（＝統計データの整理と記述の方法）の知識を身に付け、さらに推測統計（＝確率の考えをもとに、標本から母集団の特性を推論する方法）の基礎的な考え方の把握を目的とする。

【学習目標】

各自の自習時間で、パソコンも活用して教科書の例題などの課題にも挑戦していただく予定だが、決して難しい作業ではない。「統計的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面でできると役に立つものであろう。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 記述統計と推測統計
- 第3回 代表値（平均値、中央値、最頻値）
- 第4回 いろいろな平均
- 第5回 ちらばりの指標（分散・標準偏差、レンジ等）
- 第6回 偏差値
- 第7回 度数分布
- 第8回 階級の設定
- 第9回 ヒストグラム
- 第10回 確率
- 第11回 確率変数と確率分布
- 第12回 密度関数
- 第13回 正規分布
- 第14回 母集団と標本
- 第15回 標本平均と中心極限定理
- 第16回 点推定
- 第17回 平均の区間推定
- 第18回 比率の区間推定
- 第19回 検定の基本的な考え方
- 第20回 平均の差の検定
- 第21回 比率の差の検定
- 第22回 多次元データの記述
- 第23回 クロス集計
- 第24回 相関係数
- 第25回 回帰分析（その1）-最小2乗法
- 第26回 回帰分析（その2）-区間推定と仮説検定
- 第27回 順位相関係数
- 第28回 分割表の検定
- 第29回 期末試験
- 第30回 （注：理解度に応じ、順序を入れ替えることがある）

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 30% 出席 30%
 [中間レポート]は一回、[出席・講義時間中の小テスト]は不定期に実施する予定

【教科書】

金子治平・上藤一郎編 よくわかる統計学－I 基礎編－ ミネルヴァ書房
 (¥2400+税)

【参考文献】

郡山彬+和泉澤正隆=著『統計・確率のしくみ（入門ビジュアルサイエンス）』日本実業出版社（税込¥1365）ISBN:978-4534026620

科目名 クラス 講義区分	
倒産処理法 <春>	
本 間 法 之	2 単位

【講義概要】

講義の対象として、清算型の倒産処理手続の代表である破産法に基づく破産手続を取り上げる。基本的に法人の破産と自然人の破産との区別を念頭におき、主として法人（企業）の破産の場合を中心に講義を進めることとし、自然人の破産については、特に非事業者たる個人（消費者）の破産（以下、「個人破産」という）をめぐる免責の問題を中心に取り上げることにより、清算型倒産処理手続の基礎的事項についての受講生の基本的な理解を図りたい。

【学習目標】

授業の目標は、受講生が清算型倒産処理手続の基本である破産手続に関する基本的な知識を修得し理解することにある。倒産処理は、法律問題の「つぼ」であり、実体法と手続法が激しく交錯する場である。破産の場で実体法がいかなる変容を受けるのか、講義では、破産手続の理解を通じて受講生が民事法全体の理解を深めるよう努めたい。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
倒産処理制度の必要性
- 第2回 破産手続の流れと特色
- 第3回 破産手続の開始
- 第4回 破産財団
- 第5回 破産財団の維持(1)
- 第6回 破産財団の維持(2)
- 第7回 破産財団に対する権利の行使(1)
- 第8回 破産財団に対する権利の行使(2)
- 第9回 破産財団の増殖—否認権(1)
- 第10回 破産財団の増殖—否認権(2)
- 第11回 破産財団の増殖—否認権(3)
- 第12回 破産手続の終了
- 第13回 個人破産の特徴と手続の流れ
- 第14回 免責・復権
- 第15回 国際破産

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%
定期試験期間中の試験は行わず、下記の①及び②に基づいて、総合的に評価する。
①受講態度（出席状況、予習・復習状況、講義に対する積極性）(40%)
②試験に代わるレポート(60%)

なお、講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処する。

【参考文献】

講義において適宜紹介する。

【備考】

講義では、レジュメを配布する。
講義に際しては常に最新版の「六法」を携行すること。「六法」の種類は問わないが、「破産規則」、「民事再生規則」や、会社更生規則」など、参照が必要な規則類が掲載されている六法を用意すること。

科目名 クラス 講義区分	
道徳教育の研究 <秋>	
徳 永 正 直	2 単位

【講義概要】

1958年に「道徳の時間」が特設されたが、今日に至るまでその評判はあまり良くない。授業で道徳を教えることは可能なのか？「道徳」授業に対するいくつかの批判を踏まえながら、授業を含む「道徳教育」のあり方を検討する。

【学習目標】

いくつかの「道徳」授業の方法を学び、価値多様化時代における道徳教育の課題を、学習指導要領との関連で考察する。生徒の道徳的判断力、道徳的心情を育成するに相応しい道徳教育のあり方を自分自身で考える力を養う。
モラルジレンマ授業、ディベートを取り入れた授業において教育的タクトが重要であることを認識する。

【講義計画】

- 第1回 「教育」の重要性と危険性
- 第2回 従来の「道徳」授業批判
- 第3回 アリス・ミラーの反教育学-何故道徳教育は否定されるのか。
- 第4回 アリス・ミラーの反教育学に対する批判と道徳教育の必要性
- 第5回 日本における道徳教育の歴史
- 第6回 道徳教育の原理-人間の根本悪とカントの道徳原理
- 第7回 価値多様化時代における道徳教育の課題-対話の原理
- 第8回 学習指導要領の解説と対話による「道徳」授業の可能性
- 第9回 ディベートによる生命倫理の授業①安楽死問題
- 第10回 ディベートによる生命倫理の授業②体外受精と代理母問題
- 第11回 道徳性の発達について-ピアジェとコールバーグ
- 第12回 コールバーグ理論に基づくモラルジレンマ授業
- 第13回 モラルジレンマ授業のモデルを視聴
- 第14回 モラルジレンマ授業の意義と問題点-教育的タクトの重要性
- 第15回 総括と試験

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 20%
講義で習得した道徳教育に関する基礎知識を確認するための試験(80%)とレポート(20%)を目安として評価する。

【教科書】

徳永・宮嶋・堤・林・榊原 道徳教育論-対話による対話への教育
ナカニシヤ出版

【参考文献】

徳永正直『教育的タクト論—実践的教育学の鍵概念』（ナカニシヤ出版、2004年）

科目名	クラス	講義区分
東洋史 01 <春集>		
原山 煌	4単位	

【講義概要】

中国とその周辺を講義の対象地域とする。そこで繰り広げられた歴史事象を、「中華」と「夷狄」との関係性という観点から通観してみる。それは、世界史の展開に大きな影響を与えた農耕民と遊牧民の相克ということでもある。中国を中心とする一帯では、「自己」と「他者」はどのように弁別されていたのであろうか。実はこの問題は、古くは中華思想の形成に、新しくは今日の中華人民共和国のありようにも強く関わっているのである。

【学習目標】

歴代の中国の王朝とモンゴル高原に興亡した騎馬遊牧民の関係を時代にそって理解してもらいたい。歴史の展開とともに、「漢民族」の意味あい自体が変質して行くし、遊牧民の側でも中国を圧倒するための知恵を身に付けて行くのであるが、そうしたことを具体的史料によって理解してもらおうと考えている。

下に記す「小テスト」で質問を受け付け、次回授業冒頭に回答する。双方向授業を実現するよう努力したい。

【講義計画】

- 第1回 この授業のオリエンテーション
- 第2回 アジアの地理的環境
- 第3回 中国の地理的環境
- 第4回 中国古代における「中華」と「夷狄」
- 第5回 遊牧という暮らし
- 第6回 騎馬遊牧民出現
- 第7回 中国世界と匈奴
- 第8回 匈奴、漢を圧す
- 第9回 漢の武帝と匈奴
- 第10回 武帝以後の状況
- 第11回 五胡十六国時代の意味
- 第12回 トルコ系遊牧民の時代：突厥
- 第13回 遊牧民族の族祖伝承
- 第14回 中央アジアのトルコ化について
- 第15回 中間テスト
- 第16回 モンゴルの出現
- 第17回 チンギス・ハンの出現まで
- 第18回 チンギス・ハンの事跡
- 第19回 チンギス・ハンの子や孫
- 第20回 モンゴルが歴史上最大の支配者になれた事情
- 第21回 元朝とフビライ・ハン
- 第22回 モンゴル世界帝国の世界史上の意義
- 第23回 モンゴルは滅亡したのか？
- 第24回 2つの万里の長城
- 第25回 モンゴル帝国が清朝を形成させた？
- 第26回 清朝における異民族統治
- 第27回 中華人民共和国の民族政策
- 第28回 噴出する「少数民族」の不満
- 第29回 まとめ
- 第30回 予備日

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 30%

毎回授業終了時に小テストを行い、出席状況を確認するとともに、授業の理解度を問う。小テストの内容は、成績評価のうち20%を占める。

【教科書】

特に指定しない。頻繁に配布資料を用意する。

【参考文献】

折に触れて紹介する。

科目名	クラス	講義区分
東洋史 02 <秋集>		
今澤 浩 二	4単位	

【講義概要】

この講義では、中学・高校において歴史教育に従事することをめざす学生を想定し、東洋史をいかに学び教えるのかということに重点を置いて、授業を進めていく。

中国とその周辺地域だけでなく、東洋史において見過ごされがちなイスラーム世界も取り上げ、その歴史的役割の重要性についても考えたい。

【学習目標】

アジア各地の歴史は、それぞれ個別に展開したのではなく、相互に影響を与えつつ発展していったという点に理解を促し、それを通じて、歴史を見る目を養い、歴史を学び教える意義について考えることを主要な目標とする。

【講義計画】

- 第1回 古代オリエント文明① (メソポタミア文明)
- 第2回 古代オリエント文明② (古代オリエントの統一)
- 第3回 古代オリエント文明③ (ヘレニズム時代)
- 第4回 南アジアの古代文明① (インダス文明)
- 第5回 南アジアの古代文明② (古代インドの諸王朝)
- 第6回 中国の古代文明① (殷・周)
- 第7回 中国の古代文明② (春秋戦国時代)
- 第8回 中国の古代文明③ (秦・漢)
- 第9回 東アジア世界の形成① (三国時代～南北朝時代)
- 第10回 東アジア世界の形成② (隋)
- 第11回 東アジア世界の形成③ (唐)
- 第12回 東アジア世界の形成④ (唐代の社会・文化)
- 第13回 東アジア世界の形成⑤ (宋)
- 第14回 東アジア世界の形成⑥ (宋代の社会・文化)
- 第15回 東アジア世界の形成⑦ (モンゴル帝国～元)
- 第16回 イスラーム世界の成立と発展① (イスラーム教の成立)
- 第17回 イスラーム世界の成立と発展② (イスラーム世界の発展)
- 第18回 イスラーム世界の成立と発展③ (イスラーム文明)
- 第19回 アジアの繁栄① (西・南アジア)
- 第20回 アジアの繁栄② (明)
- 第21回 アジアの繁栄③ (清)
- 第22回 アジアの動揺① (西アジア)
- 第23回 アジアの動揺② (南アジア)
- 第24回 アジアの動揺③ (東アジア)
- 第25回 アジアの民族運動① (東アジア)
- 第26回 アジアの民族運動② (西・南アジア)
- 第27回 第1次世界大戦とアジア
- 第28回 第2次世界大戦とアジア
- 第29回 まとめ
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%

初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

た
行

科目名 クラス 講義区分	
東洋美術史 <春集>	
林 宏 作	4単位

【講義概要】

美術の範疇はいつまで広く、絵画・彫塑・建築・工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。この講義では、東アジア・内陸アジアの多様な自然と生活、社会などを基盤として、どのような芸術が創造されてきたのかを問いたい。それには先史時代・殷・周・戦国・秦・漢・南北朝・隋・唐・宋・元・明・清など、時代を縦割りにして中国芸術史の継続性を究め、さらにそれぞれの時代を横割りにしてアジア諸地域の文化との交流という広範な視野からも中国芸術の全貌を眺めてみたい。各時代の特色や代表的な作家について述べながら、中国絵画における線描や皴法の特徴、山水画の起源、書画同源の問題、さらに謝赫の六法論、写実と写意の概念、董其昌の南北画論などの理論についても論じてみたい。

【講義計画】

- 第1回 ・ガイダンス ・授業計画について
- 第2回 絵画観賞－山水画
- 第3回 絵画観賞－花鳥画
- 第4回 線画芸術の基礎
- 第5回 新石器時代の絵模様
- 第6回 長沙楚墓の帛画
- 第7回 馬王堆の帛画
- 第8回 顧愷之について
- 第9回 『画雲台山記』について
- 第10回 宗炳と王微
- 第11回 『古画品録』と六法
- 第12回 隋・唐の人物画
- 第13回 「曹衣出水」と「呉帯当風」
- 第14回 山水画の起源
- 第15回 李思訓と王維
- 第16回 中間試験
- 第17回 唐の山水画
- 第18回 主山堂々について
- 第19回 范寛・李成・郭熙について
- 第20回 董源・巨然について
- 第21回 宋代の花鳥画①
- 第22回 宋代の花鳥画②
- 第23回 宋代の花鳥画③
- 第24回 宋代の花鳥画④
- 第25回 宋代の花鳥画⑤
- 第26回 元末四大家①
- 第27回 元末四大家②
- 第28回 宮廷絵画の再建
- 第29回 南北二宗論
- 第30回 期末試験

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、テスト結果に基づいて総合的に評価する。

【教科書】

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

参考文献は適時、紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
特別活動論 01 <春>	
林 陸 雄	2単位

【講義概要】

特別活動とは生徒の学校生活を支える重要な基盤である。特別活動を通じて、教科で学んだ知識・技能・態度を実際の学校生活場面で統合的に体現しうる能力を育成することが期待されている。その特別活動のあり方について、中学校および高等学校の学習指導要領に準拠し、小学校・中学校を訪問しその特別活動に触れながら、必要な基礎基本について修得する。授業の展開に当たっては、ビデオによる実践モデルの視聴、疑似学習、実習を交えながら展開する。指導計画を作成のうえ疑似学習・実習を行うことで実践的指導力の育成を図る。

【学習目標】

学習指導要領に準拠して特別活動の指導法に関する基礎基本を修得し、実践しうる能力を獲得する。

【講義計画】

- 第1回 授業開き
学習目標、概要、評価方法について説明する。
「各自の経験を振り返って」意見交換する。
小テーマに即して疑似的に体験学習するために、グループ編成する。
- 第2回 特別活動の目標と特質と内容構成
- 第3回 特別活動の指導計画と取り扱い上の注意
- 第4回 ホームルーム活動1
- 第5回 ホームルーム活動2（疑似体験学習）
- 第6回 生徒会活動1
- 第7回 生徒会活動2（ビデオ視聴）
- 第8回 学校行事1
- 第9回 学校行事2（ビデオ視聴）
- 第10回 進路指導1
- 第11回 進路指導2（3者面談-疑似体験学習）
- 第12回 特別活動の実際（ビデオ視聴）
- 第13回 ボランティア活動
- 第14回 特別活動の今日的課題
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%

【参考文献】

中学校・高等学校学習指導要領

科目名 クラス 講義区分	
特別活動論 02 <秋>	
林 陸 雄	2単位

【講義概要】

特別活動とは生徒の学校生活を支える重要な基盤である。特別活動を通じて、教科で学んだ知識・技能・態度を実際の学校生活場面で統合的に表現しうる能力を育成することが期待されている。その特別活動のあり方について、中学校および高等学校の学習指導要領に準拠し、小学校・中学校を訪問しその特別活動に触れながら、必要な基礎基本について修得する。授業の展開に当たっては、ビデオによる実践モデルの視聴、疑似学習、実習を交えながら展開する。指導計画を作成のうえ疑似学習・実習を行うことで実践的指導力の育成を図る。

【学習目標】

学習指導要領に準拠して特別活動の指導法に関する基礎基本を修得し、実践しうる能力を獲得する。

【講義計画】

- 第1回 授業開き
学習目標、概要、評価方法について説明する。
「各自の経験を振り返って」意見交換する。
小テーマに即して擬似的に体験学習するために、グループ編成する。
- 第2回 特別活動の目標と特質と内容構成
- 第3回 特別活動の指導計画と取り扱い上の注意
- 第4回 ホームルーム活動1
- 第5回 ホームルーム活動2（疑似体験学習）
- 第6回 生徒会活動1
- 第7回 生徒会活動2（ビデオ視聴）
- 第8回 学校行事1
- 第9回 学校行事2（ビデオ視聴）
- 第10回 進路指導1
- 第11回 進路指導2（3者面談-疑似体験学習）
- 第12回 特別活動の実際（ビデオ視聴）
- 第13回 ボランティア活動
- 第14回 特別活動の今日的課題
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%

【参考文献】

中学校・高等学校学習指導要領

科目名 クラス 講義区分	
都市社会学 <春集>	
竹中英紀	4単位

【講義概要】

都市は、さまざまな人びとが群れ集い、あるいは生まれ育って、集団生活・社会生活をくり広げる場である。しかしそこには、都市ならではの深刻な格差や対立がともなうこともある。都市社会学は、社会学のなかの一分野として、こうした「社会現象としての都市」を研究対象にしてきた。

この授業では、ヨーロッパの近代社会学に端を発し、20世紀アメリカのシカゴ学派において確立をみる都市社会学の系譜と、その後の展開について、解説をこころみる。また、現代および歴史上の世界や日本の都市問題をとりあげ、それらの問題が社会的にはどのようにとらえられるかを考える。

【学習目標】

上記「講義概要」に対応する内容を習得することを学習目標とする。あらかじめ教科書の該当箇所を読んできたり、ノートをしっかりとって知識を整理するなど、毎回の予習・復習を欠かさないことが単位修得のための必須条件となるので、安易な気持ちで受講してはならない。

【講義計画】

- 第1回 社会現象としての都市
- 第2回 歴史のなかの都市(1)古代都市と中世都市
- 第3回 歴史のなかの都市(2)近代都市と現代都市
- 第4回 ヨーロッパ社会学における都市理論の系譜
- 第5回 マックス・ウェーバーと都市社会学
- 第6回 20世紀アメリカの発展とシカゴ学派の都市研究
- 第7回 都市の成長と同心円地帯の形成
- 第8回 生活様式としてのアーバンイズム(1)ワース理論の解説
- 第9回 生活様式としてのアーバンイズム(2)批判と継承
- 第10回 コミュニティと社会的ネットワーク
- 第11回 アーバンイズムの下位文化理論
- 第12回 都会人のパーソナリティ
- 第13回 マルクス主義と「新しい都市社会学」
- 第14回 戦後日本の高度経済成長と都市社会学
- 第15回 グローバリゼーションと都市エスニシティ(1)「世界都市」の誕生
- 第16回 グローバリゼーションと都市エスニシティ(2)社会的分極化
- 第17回 都心とインナーエリア(1)都市の個性
- 第18回 都心とインナーエリア(2)衰退と再生
- 第19回 郊外社会とサバーバンイズム(1)住宅開発の広がり
- 第20回 郊外社会とサバーバンイズム(2)ニュータウンの問題
- 第21回 町内会・自治会の研究(1)町内会の歴史
- 第22回 町内会・自治会の研究(2)町内会の現在
- 第23回 コミュニティとその可能性(1)日本の事例
- 第24回 コミュニティとその可能性(2)アメリカの事例
- 第25回 都市と社会階層(1)クリエイティブ・クラスとサービス・クラス
- 第26回 都市と社会階層(2)アンダークラス
- 第27回 (補論1)新興国の都市・イスラム圏の都市
- 第28回 (補論2)近代日本文学と都市社会学

【成績評価の方法】

授業期間中の小テスト(数回)計50%と、期末試験50%の割合で成績を評価する。ただしこの割合は、小テストを頻繁に実施できないほど受講者数が増えた場合には変更することがある。

小テスト実施日にやむをえない理由で遅刻・欠席したときは、証明書または報告書を提出すれば、その具体的な内容・緊急性の度合いに応じて考慮する。ただし考慮の対象は、小テストの全実施回数のうち3分の1以内に限定する(例:6回実施なら2回まで)。

【教科書】

高橋勇悦監修/菊池美代志・江上涉編 改訂版・21世紀の都市社会学 学文社

【参考文献】

- [1] 井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシック4 都市的世界』世界思想社、2008年。
- [2] 大谷信介『〈都市的なるもの〉の社会学』ミネルヴァ書房、2007年。
- [3] C・S・フィッシャー(松本康・前田尚子訳)『都市的体験』未來社、1996年。

科目名 クラス 講義区分	
都市政策論 <通期>	
松本 誠	4単位

【講義概要】

「都市の爆発と再生～都市づくりの担い手と分権・自治の仕組み」

戦後日本の都市政策は、急激な都市への人口集中と都市構造の過密・高度化によって、国土の均衡を崩し、農山村の破壊をもたらし、都市の暮らしの環境悪化をもたらしてきた。それはまた、ハード面でもソフト面でも災害に弱い都市の構造をつくりだしてきた。

このような都市の“爆発”のなかで、住民・市民と自治体は、どのような政策を展開してきたのか。都市の再生へ、どのような対応をしてきたのか。

今日直面している分権型都市のあり方を踏まえて、21世紀の都市と自治体のあり方を展望しながら、新しい都市政策を考える。同時に、住民・市民が新しい都市づくりに、どのように主体的な役割を果たすべきかについても、実践的な課題を探りたい。

【学習目標】

以下の項目について、講義を中心に状況認識と課題を把握することに努める。各項目について2～4回程度の講義回数を予定しているが、進捗状況によって適宜変更することがある。

講義には毎回、担当者からレジュメ等の資料を配布して進める。毎回の講義では出席カードを利用して、質問や感想等を求め、次回の講義冒頭に質問に答える。

【講義計画】

- 第1回 <オリエンテーション>
現代の都市政策と都市づくりの担い手である住民・市民をどうとらえるか。
- 第2回 都市公害と住民運動①
戦後日本の公害の歴史を振り返る。高度経済成長の裏面で拡大した産業公害は何をもたらしたか。
- 第3回 都市公害と住民運動②
産業公害から開発、都市公害へ焦点が移り変わった中で問われた「豊かな社会」の都市づくりと暮らしの見直し。
- 第4回 革新自治体と都市政策①
革新自治体の登場とその背景を探る。
- 第5回 革新自治体と都市政策②
革新自治体の政策と退潮。新しい地方の時代の芽生え。
- 第6回 革新自治体と都市政策③
改革派首長の登場とその政治手法。
- 第7回 中山間地域の崩壊と“まちおこし”ブームの意味①
過疎と過密の同時進行と農山村の崩壊。
- 第8回 中山間地域の崩壊と“まちおこし”ブームの意味②
農山村の変貌と第2次過疎化現象。80年代以降のまちおこし、村おこし運動。
- 第9回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開①
戦後日本の民衆運動史の流れを振り返る。
- 第10回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開②
70年代以降の市民・住民運動の芽生え。
- 第11回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開③
70年代型の市民・住民運動と90年代型の市民住民運動の特徴。
- 第12回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開④
新しい市民社会へのうねりを90年代以降に見る。世界的規模での変革のうねり。
- 第13回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開⑤
「公共」概念の変革と新しい公共を担う市民活動の登場。
- 第14回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開⑥
新しい労働観と生きがいを刺激する市民活動。
- 第15回 戦後の市民・住民運動の系譜と展開⑦
市民主導の政治と行政への胎動。
- 第16回 住民主体のまちづくりの試行①
なぜ、いま「住民参加」なのか。住民参加から住民主体への展開。
- 第17回 住民主体のまちづくりの試行②
「参加」の態様と段階。市民参加の類型と参加度の段階。
- 第18回 住民主体のまちづくりの試行③
まちづくりの課題をどのように見出すか。住民がまちづくりに取り組むきっかけと、ひと、もの、しくみづくり。
- 第19回 住民主体のまちづくりの試行④
まちの価値の発見と創造。具体的な実践事例から学ぶ。
- 第20回 住民主体のまちづくりの試行⑤

まちづくりの実践論。住民主体のまちづくりへの4つのステップ。ある地域での活動事例から考える。

- 第21回 地方分権と住民自治①
地方分権とは何か。地方分権時代と分権型社会。
- 第22回 地方分権と住民自治②
地方分権と住民自治。地方自治の本旨と、住民自治を保障する直接行政参加権。
- 第23回 地方分権と住民自治③
これからの分権改革。分権型社会の構図と市町村合併。
- 第24回 阪神・淡路大震災とサステイナブル・コミュニティ①
14年前の大震災が問いかけたもの。集中依存型社会から自律分散型社会へ。経済効率優先から、安全・安心・ゆとりの共生社会へ。
- 第25回 阪神・淡路大震災とサステイナブル・コミュニティ②
自律的コミュニティの形成と住民自治。震災復興下で芽生えた市民活動の新しい展開。
- 第26回 阪神・淡路大震災とサステイナブル・コミュニティ③
サステイナブル・コミュニティと新しい都市づくり。持続可能な都市づくりへの試みと「サステイナビリティ」。
- 第27回 閑話休題（質問とレポート課題への助言）
- 第28回 参画・協働と新しい地方自治の模索①
市民「参画」と「協働」の新しい展開。市民参画をめぐる新しいうねりの系譜。
- 第29回 地域内分権から自治を鍛えなおす
市民主権への道程と「小さな自治」の仕組みづくり。
- 第30回 全体の総括と補充。

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 80% 出席 20%

期末にレポートの提出を求めるほか、期中にも中間レポートを課し、参考評価とする。また、毎時間出席カードを兼ねたミニレポート等によって評価を補足する。

【教科書】

毎時間、担当者から配布するレジュメによって講義を進める。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。